

翻 刻

文部省刊行

漢史一斑

大阪書林 三如堂翻刻

特31
691
690

漢史一斑題言

漢史一斑ハ童蒙ニ課スル爲ニ編スル所ナリ、上
三皇ヨリ下清代ニ至ル、其言極テ節略セリ、故ニ
或ハ其事理ノ條貫ヲ了シ得サルコト有ラズ、顧
フニ彼ノ史浩繁、文字モ亦童蒙ノ辨シ易キ所ニ
非ス、唯其興亡治忽ニ關ル所以ノ大要ヲ撮シ之
ヲ示スノミ、即一斑ト命クル所以ナリ、若其全體
ヲ求メント欲セハ、自原史アリ、何ソ此書ヲ待タ
ンヤ、況ヤ明末ヨリ清ニ至リ、世未正史アラズ、漫
ニ私記野乘ニ原キ之ヲ記ス、亦所謂斷爛朝報タ

ルコトヲ免レズ、讀ム者其淺短ヲ咲フコト勿レ、
明治九年二月
小永井八郎識

漢史一斑目錄

第一卷

三皇紀

五帝紀

夏紀

商紀

周紀

秦紀

西漢紀

東漢紀

後漢紀蜀

第二卷

晉紀

東晉紀

宋紀

齊紀

梁紀

陳紀

隋紀

唐紀

後梁紀

後唐紀

後晉紀

後漢紀

後周紀

第三卷

宋紀

元紀

明紀

第四卷

明紀
清紀

漢史一斑 第一卷

小永井八郎 編

三皇紀

太昊伏羲氏、八卦ヲ畫ス、書契ヲ作テ結繩ノ政ニ代ス、炎帝神農氏、五穀ヲ藝シ、廛市ヲ作り、鑿藥ヲ製ス、黃帝有熊氏、文字宮室衣裳器用貨幣ヲ制作ス、

五帝紀

少昊金天氏、名ハ摯、黃帝ノ子玄囂ナリ、顓頊高陽氏、玄囂ノ子、九州ヲ制ス、雍、荆、豫、梁、冀、青、兗、徐、揚ナリ、歷象ヲ改メ、建寅月ヲ歷

元トス、帝學高辛氏、少昊ノ孫 帝堯陶唐氏、名ハ放、勳 歷象ヲ治メ、民ニ時ヲ授ク、洪水アリ、鯀ニ命シテ治メシム、九載ニシテ功ナシ、舜ヲ登庸ス、舜父頑ニ母嚚ニ弟象驕レリ、舜孝悌ノ道ヲ盡シテ篤謹ナリ、帝即其位ヲ禪ル、舜四凶ノ族ヲ流ス、 禹ニ命シテ水ヲ治メシム、禹水ヲ治メ九州ヲ分テ十二州トス、冀、兗、青、徐、荆、揚、豫、梁、雍、幽、并、營 后稷ヲシテ民ニ稼穡ヲ教ヘ契ヲ司徒トナシテ人倫ヲ教ヘシム、又五刑ヲ制ス、帝舜有虞氏、黃帝ハ堯ノ禪ヲ受ク、帝ノ子商均不肖ナリ、是ニ於テ禹ニ命シ政ヲ攝

セシム、

夏紀 姒姓安邑ニ都ス、

大禹 舜ノ禪ヲ受ク、 載ヲ改テ歲ト曰フ、元歲諸侯ヲ

塗山ニ會ス、禹ノ子、 啓 禹ノ子、 有扈氏法ニ順ハス、啟與

ニ甘泉ノ野ニ戰ス、太康 啟ノ子、 十九歲太康盤

游度ナシ、有窮ノ后羿河ニ距キテ仲康ヲ立ツ、相

仲康 ノ子、 八歲羿民事ヲ修メス、寒浞ヲ用テ相トス

浞羿ヲ弑シ之ニ代ル、二十八歲寒浞王ヲ帝丘

ニ殺ス、后緡ハ有仍國君ノ女ナリ、逃テ有仍ニ歸

ル、少康ヲ生ム、少康 相ノ子、 二十三歲少康仍ノ

牧正タリ、寒浞ノ子澆之ヲ求ム、少康虞ニ奔ル、
 四十歳夏ノ遺臣靡師ヲ興シテ寒浞ヲ誅シ王ヲ
 奉シテ天子ノ位ヲ踐マシム、澆及豷皆浞ノ子ヲ誅シ、
 禹ノ舊蹟ニ復ス、夏道復興ル後十傳シテ癸ニ至
 ル、癸發ノ子、即桀ナリ 二十二歳、公劉豳ニ遷ル、初メ
 公劉ノ先居稷ノ時ニ邠ニ封セララル、此ニ至リ
 公劉桀ヲ避ケテ豳ニ居リ、后稷ノ業ヲ脩ム、周ノ
 興ル此ヨリス、 三十三歳蒙山ヲ伐シ、蒙山ノ有
 施氏妹喜ヲ獻ス、王之ヲ嬖ス、瓊室象廊瑤臺玉床
 肉山脯林酒池ヲ作ル、 三十七歳商主湯伊尹ヲ

聘シ夏主ニ進ム、夏主無道ナリ、尹諫ムルモ聽カ
 ス、尹曰ク、君王聽カスハ七フル日ナケシ、桀笑テ
 曰ク、吾天下ヲ有ツ、天ノ日アルカ如シ、日豈亡フ
 ル有ンヤ、尹遂ニ湯ニ適ク、湯以テ相トス、 四十
 二歳、商湯ヲ夏臺ニ囚フ、湯嘗テ出テ、田ス、網ノ三
 面ヲ去テ曰ク、左セント欲スル者ハ左セヨ、右セ
 ント欲スル者ハ右セヨ、命ヲ用井サル者ハ吾網
 ニ入レト、諸侯之ヲ聞テ曰ク、湯ノ德禽獸ニ及フ
 ト、皆心ヲ歸ス、桀聞テ疾シ之ヲ囚フ、既ニシテ之
 ヲ釋ス、 五十二歳、諫臣關龍逢ヲ殺ス、

商紀 子姓者
二都ス

商王成湯 歲ヲ改テ祀ト曰ス 十八祀、王夏桀
 ヲ伐テ、之ヲ南巢ニ放シ、天子ノ位ヲ踐ミ、國號ヲ
 建テ、商ト曰ス、二十四祀、湯既ニ桀ヲ南巢ニ放
 ツ、大旱七年乃乘林ノ野ニ禱ル、六事ヲ以テ自責
 メテ曰ク、政節アラサルカ、民ヲ疾マシムルカ、宮
 室高キカ、女謁盛ナルカ、苞苴行ハルカ、讒夫昌ン
 ナルカ、言未巳サルニ大ニ雨フル、太田湯ノ孫
太丁ノ
 子、太甲湯ノ典刑ヲ顛覆ス、伊尹之ヲ桐ニ放ス、三
 年ニシテ復亳ニ歸ル、後四傳シテ大戊ニ至ル、

太戊雍己
弟伊陟臣扈ヲ相トシ、湯ノ政ヲ脩ム、九傳
 シテ盤庚ニ至ル、盤庚陽甲
子都ヲ殷ニ遷シ、國號
 ヲ殷ト改ム、諸侯來朝ス、二傳シテ武丁ニ至ル、
 武丁小乙
子武丁帝良弼ヲ賚フト夢ミ傳説ヲ得タ
 リ、立テ相トス、四傳シテ武乙ニ至ル、武乙庚丁
子
 武乙無道ナリ、革囊ニ血ヲ盛リ仰テ之ヲ射ル、天
 ヲ射ルト曰ス、河渭ニ獵シ、暴雷ニ震死ス、二傳シ
 テ帝乙ニ至ル、帝乙太丁
子元祀周公季歷ニ命
 シ、侯伯トス、初古公三子太伯仲雍季歷アリ、季歷
 ノ子昌聖瑞アリ、太伯仲雍父古公カ季歷ヲ立テ

昌ニ傳、ント欲スルヲ知リ、荆蠻ニ避テ季歷ニ讓
 ル、七祀周公季歷薨ス、世子昌位ヲ嗣久、仁ヲ篤
 クシ、老ヲ敬シ、少ヲ慈シ、賢ヲ禮ス、紂辛辛乙子紂
 賦稅ヲ厚シテ、鹿臺ノ錢ヲ實テ、鉅橋ノ粟ヲ盈テ、
 大ニ樂戲ス、酒池肉林ヲ爲リ、男女僕シテ其間ニ
 相追フ、百姓怨ミ、諸侯畔ク、乃刑ヲ重クス、炮烙ノ
 法アリ、十一祀九侯ヲ醢ス、鄂侯争諫ス、之ヲ脯
 ス、西伯聞テ歎ス、即即羗里ニ囚フ、既ニシテ之ヲ釋
 ス、十二祀、虞芮ノ人獄アリ、周ニ如ク、耕者皆畔
 ヲ讓リ、民俗皆長ニ讓ル、虞芮ノ人慚テ曰ク、吾争

フ所ハ周人ノ恥ル所ナリト、遂ニ還テ俱ニ讓レ
 リ、十五祀、周ノ西伯呂尚ヲ渭水ニ得テ尊テ尚
 父トス、二十祀、周ノ西伯昌薨ス、世子發嗣立ス
 二十一祀、周ノ西伯發東シテ兵ヲ盟津ニ觀ス、
 諸侯期セスシテ會スル者八百、皆曰ク、紂ハ伐ツ
 可シ、王曰ク、天命未可ナラスト、兵ヲ引テ還ル、
 三十二祀、比干ヲ殺シ、箕子ヲ囚ス、微子去ル、

周紀姬姓 鎬ニ都ス 後洛ニ遷ル

武王名ハ發 文王ノ子祀ヲ改テ年ト曰ス、三十三祀、周

商牧野ニ會戦ス、商ノ師潰ク、紂鹿臺ニ及リテ自

燔テ死セリ、初王ノ師ヲ出タスヤ、孤竹君ノ二子
 伯夷、叔齊、馬ヲ扣ヘ、君臣ノ義ヲ陳レテ諫ム、商ハ
 ヒ二子首陽山ニ隱レテ、餓死ス、武王即位ス、國ヲ
 周ト號ス、建子月ヲ歲首トス、妣己ヲ殺シ、箕子ヲ
 釋シ、比干ノ墓ヲ封シ、商容ノ閭ニ式ス、都ヲ鎬ニ
 遷ス、成王名ハ誦、武王名ハ誦、武元年、周公且王カ幼ニシテ
 天下ノ畔カンコトヲ恐レ、政ヲ攝行ス、周公ノ元
 子伯禽封國魯ニ就久、三年、大雷風アリ、王周公
 ヲ東ヨリ迎フ、周公攝政ス、管叔、蔡叔、流言シテ曰
 ク、公將ニ孺子ニ不利セントスト、周公遂ニ位ヲ

避テ東ニ居ル、時ニ暴風雨、日夜休マズ、王大ニ恐
 レテ、公ヲ迎ヘ歸ス、管、蔡、遂ニ武庚ト亂ヲ作ス、公
 王命ヲ奉シ、伐テ武庚、管叔ヲ誅シ、蔡叔ヲ放ツ、武
 庚ハ殷ノ後、是ニ於テ微子ヲ殷ノ後トシ、宋ニ國
 ス、康王名ハ釗、成王名ハ誦、武王名ハ誦、武二十六年、太保召公奭薨ス、
 謚シテ康公ト曰フ、公西方ヲ治メ、甚民和ヲ得ク
 リ、嘗テ棠樹下ニ訟ヲ聽ク、後入其樹ヲ伐ルニ忍
 ヒス、甘棠ノ詩ヲ作ル、昭王名ハ瑗、康王名ハ誦、武王名ハ誦、武王南征
 シテ、漢水ニ溺死ス、五傳シテ厲王ニ至ル、厲王
 名ハ胡、夷王ノ子、三十三年、衛巫ヲシテ、謗ル者ヲ監セシ

召公諫ムレトモ聽カス國人相畔テ王ヲ襲ス
 王琬ニ出奔ス、諸侯共ニ國事ヲ理ム、號シテ共和
 ト曰ス、名ハ釗厲宣王元年周公且ノ名公爽後
 政ヲ輔ク、諸侯復周ヲ宗トス、名ハ官溷幽王
 年、褒人罪アリ、女ヲ入レテ贖ス、是ヲ褒姒トス、王之
 フ愛シ子伯服ヲ生ム、以テ太子トシ、申后及ヒ太
 子ヲ廢ス、十一年申侯申后ノ父大戎ト入寇シ王ヲ
 弑シ故ノ太子宜臼ヲ立ツ、平王名ハ宜白元年
 王犬戎ヲ恐レテ、東洛邑ニ遷ル、周室衰微ス、桓王
名ハ林平王ノ子十三年王鄭ヲ伐テ繻葛ニ戰フ初
孫太子洩ノ子

平王ノ時鄭伯莊公埒士タリ、王政ヲ統ニ分タント
 ス、鄭伯怨ム、王崩スルニ及ヒテ周人統公ニ政ヲ
 卑ヘントス、鄭ノ祭足師ヲ帥テ周ヲ侵ス、王諸侯
 ヲ以テ鄭ヲ伐ツ、祝聃王ヲ射テ肩ニ中ツ、莊王
名ハ他、桓十二年、齊ノ公子小白立ツ、先キニ襄公小
王ノ子ノ連稱管至父ヲシテ葵丘ヲ成ラシム、期ニ至テ
 代ヘス、故ニ二人公孫無知小白ノ兄ニ因テ亂ヲ作シ、
 襄公ヲ弑シテ無知ヲ立ツ、公子糾小白ノ兄魯ニ奔リ、
 小白莒ニ奔ル、大夫雍廩無知ヲ殺ス、高偃桓公小
 白ヲ迎立ス、魯ヲシテ子糾ヲ殺サシム、其傅召忽

爲ニ死ス、桓公管仲亦子糾ノ傅ヲ請ヒテ親郊ニ逆ヘ
 用井テ相トス、僖王名ハ胡齊莊王ノ子元年、魯公齊公ト
 柯ニ會ス、曹沫匕首ヲ以テ桓公ヲ劫ス、齊因テ魯
 ノ侵地ヲ及ス、惠王名ハ閔僖王ノ子十七年、狄人來テ
 衛ヲ伐チ、懿公ヲ殺シ、衛ヲ滅ス、國人戴公申ヲ立
 シ、期年ニシテ卒ス、齊諸侯ヲ率井テ其弟文公燬
 ヲ立ツ、二十一年、齊諸侯ヲ率井テ楚ヲ伐ツ、楚
 懼テ名陵ニ盟ス、襄王名ハ鄭惠王ノ子九年、齊ノ小白
 卒ス、桓公内寵多シ、五子黨ヲ樹テ、立多コトヲ
 争ス、國大ニ亂ル、十六年、晉ノ公子重耳、晉ニ入

ル重耳ハ獻公ノ子ナリ、驪姫譖シテ太子申生ヲ
 殺ス、重耳恐レテ母國狄ニ奔リ、遂ニ齊楚秦ニ至
 ル、外ニ在ルコト凡十九年、晉ノ惠公卒ス、秦乃兵
 ヲ發シテ、重耳ヲ晉ニ送リテ之ヲ立ツ、是ヲ文公
 トス、十七年、王ノ後母弟叔帶亂ヲ作ス、王鄭ニ
 奔ル、晉ノ文公王ヲ納レ、叔帶ヲ誅ス、二十五年
 晉ノ文公卒ス、秦ノ師鄭ヲ伐ツ、晉ノ襄公之ヲ殺
 ス、敗ル、匡王名ハ班、襄王ノ子六年、晉ノ趙盾其君
 夷臯ヲ殺ス、晉ノ靈公不君ナリ、盾數諫ム、公之ヲ
 患テ之ヲ殺サント計ル、盾奔ル、盾ノ從父昆弟、

子穿襲テ、靈公ヲ殺ス、太史董狐書シテ曰ク趙盾
 其君ヲ弒ス、盾曰ク弒スル者ハ趙穿ナリ太史曰
 ク、子正卿ト爲テ、亡テ境ヲ越エス、反テ賊ヲ討ヤ
 ス、子ニ非スシテ誰リ、定王名ハ瑜、匡十一年晋
 ノ屠岸賈趙朔ヲ下宮ニ殺シ、其家ヲ滅ス、朔ハ盾
 ノ子ナリ、程嬰朔ノ遺腹ノ子ヲ負テ山中ニ匿ル、
 公孫杵臼其難ニ死ス、後十五年、其子武長ス、嬰共
 ニ謀テ賈ヲ滅ス、景王名ハ貴、靈王ノ子、二年鄭
 ノ公孫僑卒ス、子産疾アリ子大叔ニ謂テ曰ク、有
 德者寛ヲ以テ民ヲ服ス、其次ハ猛ニ如ハナシト、

子産卒ス孔子曰ク、古ノ遺愛ナリ、敬王名ハ句、

弟景王ヨリ三世十五年、楚ノ申包胥秦ノ師ヲ乞テ楚ヲ

救フ、初伍員ノ父奢楚ノ平王ニ殺サル、員吳ニ奔

ル、吳ヲ導テ楚ヲ伐テ、平王ノ屍ヲ鞭ツ、昭王隨ニ

奔ル、申包胥秦ニ走リ急ヲ告ケ、七日七夜哭シテ

聲ヲ絶タス、哀公之ヲ憐ミ、兵ヲ遣テ楚ヲ救ス、

二十年、魯侯齊侯ニ夾谷ニ會ス、齊萊人ヲシテ祭

ヲ爲シ、魯君ヲ執ヘントス、孔子其無禮ヲ責メ、侵地

ヲ反サシム、二十三年、魯孔子ニ相事ヲ攝セシ

ム、七日シテ、政ヲ亂セル大夫少正卯ヲ誅ス、

二十四年吳越ヲ伐テ齊李ニ敗ル、闔閭指ヲ傷キ
 テ卒ス、夫差嗣ク、二十六年、吳子越ヲ夫椒ニ敗
 ル、三十九年、齊ノ田恒其君壬ヲ弒ス、齊ノ桓公
 ノ世ニ、陳ノ公子完齊ニ奔リ、姓ヲ田ト更ム、後齊
 亂レテ、政田氏ニ歸ス、是ニ至リテ恒簡公ヲ弒ス
 元王名ハ子、敬三年、越王吳ヲ滅ス、越王常ニ吳
 ニ報イメント欲シ、計ヲ吳ヲ驕ラシム、吳子胥數吳
 王ヲ諫ム、太宰嚭子胥ヲ讒ス、吳王遂ニ子胥ニ死
 ヲ賜ス、子胥曰ク、吾眼ヲ抉テ東門ニ懸ケヨ、越兵
 シ入ルヲ觀ン、越果シテ入ル、夫差自剄ス、貞定

王名ハ介、元十一年、晉ノ荀瑶智子趙無恤韓康子魏魏
 桓子ト范范吉中行荀寅ヲ滅ス、十四年、智伯韓魏
 ノ甲ヲ帥、井テ趙襄子ヲ晉陽ニ圍ム、十六年、趙
 襄子韓魏ト約シ、反テ荀瑶ヲ攻テ之ヲ滅シ、其地
 ヲ三分ス、瑤カ臣豫讓、數襄子ヲ刺セントス、襄子義
 トシテ、己カ衣ヲ解テ之ニ與フ、讓劍ヲ拔テ之ヲ
 擊テ曰ク、以テ智伯ニ報ス可シト、遂ニ自殺ス、
 考王名ハ嵬、貞定十五年、西周公惠其子班ヲ鞏ニ
 封シ、王ヲ奉シテ東周ト號ス、威烈王名ハ午、考
 二十三年、魏趙韓ニ命シ、諸侯トス、魏桓子ノ子文

漢書卷一百一十五 十一 大

侯斯賢ナリト子夏田子方ヲ師トス、世子擊子方ニ逢フ、車ヨリ下リ伏謁ス、子方禮セズ、擊曰ク、富貴ノ者人ニ驕ルカ、貧賤ノ者人ニ驕ルカ、子方曰ク、亦貧賤ノ者人ニ驕ルノミ、富貴ノ者安ソ敢テ人ニ驕ラン、富貴ニシテ人ニ驕レハ、國ト家トヲ失フ、安王名ハ驕威烈王ノ子、五年、屢仲子韓ノ相、俠累ト郤アリ、齊人聶政ノ勇ヲ聞テ請テ警ヲ報イント欲ス、俠累方ニ府ニ坐ス、政直ニ入テ之ヲ刺ス、因テ自ラ面ヲ皮ハキ、眼ヲ抉テ死ス、其姉、夢往テ哭シテ曰ク、是深井里ノ聶政ナリ、妾カ故ニ重ク自

刑スルナラント、遂ニ其尸傍ニ死セリ、顯王ハ名扁ノ弟烈王十年、秦衛鞅ヲ左庶長トス、鞅法ヲ變セント欲ス、民ノ信セサランコトヲ恐レ、三丈ノ木ヲ國都ノ南門ニ立テ、曰ク、北門ニ徙ス者アラハ五十金ヲ予ヘント、徙ス者アリ、輒十五十金ヲ與ス、乃令ヲ下ス、秦人皆令ニ趨ク、二十八年、魏ノ龐涓韓ヲ伐ツ、齊ノ田忌、孫臏、韓ヲ救フテ直ニ魏都ニ趨ク、涓韓ヲ去テ歸ル、臏魏ノ地ニ入り、十萬ノ竈ヲ爲ル、明日ハ五萬ノ竈、又明日ハ二萬ノ竈ヲ爲ル、涓大ニ喜テ曰ク、齊軍固ヨリ怯シ、吾カ地ニ入

リ士卒亡ルモノ過半ナリト乃急ニ贖ヲ逐ス、贖
 其行クヲ度ルニ暮ニ馬陵ニ至ルヘシ、大樹ヲ斫
 リ白書シテ曰ク、龐涓此樹下ニ死セン、涓果シテ
 夜至ル白書ヲ見テ之ヲ燭セバ、萬弩俱ニ發ス、魏
 ノ師大ニ亂ル、涓自剄ス齊魏ノ太子申ヲ虜ス、
 三十一年、秦衛鞅ヲ商君ト號ス、商君法ヲ用非
 ル嚴ナリ、人多ク怨ム孝公卒ス、公子虔ノ徒鞅ヲ
 捕ヘントス、鞅亡テ關下ニ舍ラントス、舍人曰ク、
 商君ノ法ニ無驗ノ者ヲ舍スレハ之ヲ坐ス、鞅曰
 ク、法ヲ爲スノ弊一ニ此ニ至ルカト、去テ魏ニ之

久、魏人之ヲ秦ニ内ル、惠王車裂シテ以テ徇ス、
 三十六年、燕趙韓魏齊楚合從シテ秦ヲ擯ク、蘇秦
 ヲ從約ノ長トス、四十一年、秦張儀ヲ相トス、
 四十八年、齊薛公田文ヲ孟嘗君ト號ス、文ハ嬰ノ
 子ナリ、游士ヲ招キ、食客數千人、名天下ニ重シ、
 慎靚王名ハ定、頭王ノ子五年、燕君噲國ヲ相子之ニ讓ル、
 其後國亂ル、齊之ヲ伐テ子之ヲ醢ニシ、君噲ヲ殺
 ス、赧王名ハ延、慎靚王ノ子三年、燕入太子平ヲ立ツ、是ヲ昭
 王トス、王身ヲ卑クシ賢ヲ禮シ先王ノ取ヲ雪カ
 ント人、郭隗曰ク、王士ヲ致サント欲セハ、先隗ヨ

リ始メヨ、昭王隗カ爲ニ改テ宮ヲ築テ之ニ師事
 ス、是ニ於テ樂毅鄒衍劇辛等争テ燕ニ趨ク、四
 年秦張儀ヲシテ楚韓齊趙燕ニ説キ、連衡シテ秦
 ニ事ヘシム、秦君卒ス、諸侯復合從ス、七年、秦甘
 茂ヲシテ韓ヲ伐タシム、茂王ノ信セサランコト
 ヲ恐レ息壤ニ盟テ行ク、五月マテ抜ケス、樗里子
 公孫奭果シテ之ヲ争フ、王兵ヲ罷ント欲ス、茂曰
 ク息壤彼ニ在リ、王兵ヲ起シ、茂ヲ佐ケテ、宜陽ヲ
 抜ク、十六年、秦ノ昭王楚ノ懷王ヲ誘キ武關ニ
 會盟セントス、昭雎屈平曰ク、秦ハ虎狼ノ國ナリ

信ス可ラス、子蘭王ヲ勸テ行カシム、秦果シテ之
 ヲ執フ楚太子横ヲ立ツ、十七年、齊ノ田文、秦ニ
 在テ殺サレントス、王ノ寵姫ニ賂テ免ルヲ得タ
 リ、夜半去テ函谷關ニ至ル、關法鷄鳴テ乃客ヲ出
 ス、時ニ尚早シ、追者至ラントス、客能鷄鳴スル者
 アリ、鷄盡ク鳴ク、遂ニ出ツ、文還テ韓魏ト秦ヲ攻
 テ之ヲ敗ル、三十一年、燕ノ昭王樂毅ヲ將トシ、
 秦魏韓趙ト齊ヲ伐テ七十餘城ヲ下ス、楚ノ渚齒
 齊ヲ救ス、因テ齊ニ相トシテ燕ト齊ノ地ヲ分タ
 ント欲ス、遂ニ齊ノ湣王ヲ殺ス、三十二年、渚齒

ノ亂王ノ子法章名姓ヲ變シ、莒ノ太師敖ノ家備
 トナル層王ノ從者王孫賈市人ヲ率テ齒ヲ攻殺
 シ、法章ヲ立テ、王トナシ莒城ヲ保テ、燕ヲ拒ク
 趙嘗テ楚ノ和氏ノ璧ヲ得タリ、秦ノ昭王十五城
 ニ易ヘント請ノ、趙王給カレンコトヲ恐ル、藺相
 如曰ク、臣願クハ璧ヲ奉シテ往カン、既ニ至ル、秦
 王城ヲ償フニ意ナシ、相如乃給テ璧ヲ取リ、怒髮
 冠ヲ指シ却立シテ曰ク、臣カ頭壁ト俱ニ碎ケン
 ト、秦王賢トシテ之ヲ歸ス、三十六年、秦趙澠池
 ニ會ス、秦王趙王ニ瑟ヲ鼓カシム、藺相如秦王ニ

請テ缶ヲ擊タシム、秦王背セズ、相如曰ク、五步ノ
 内臣頸血ヲ大王ニ濺カント、秦王爲ニ缶ヲ擊ツ、
 樂毅齊ノ莒即墨ヲ圍ム、三年下ラス、燕昭王薨
 シ、惠王立ツ、騎劫毅ニ代リテ、將タリ齊ノ田單千
 餘ノ牛角ニ兵及ヲ束テ、其尾ヲ燒テ之ヲ驅ル、壯
 士五百人之ニ隨ス、燕ノ軍大敗ス、七十餘城皆復
 ス、乃襄王ヲ莒ヨリ迎テ臨菑ニ入ル、孟嘗君客
 馮驩ヲシテ債ヲ薛ニ收メシム、驩盡ク息ヲ納ム
 ルコト能ハサル者ノ券ヲ燒久、文怒ル、驩曰ク、薛
 ノ民ヲシテ君ヲ親マシムルノ爲、四十五年秦

范雎ヲ相トス、魏人范雎嘗テ須賈ニ從テ齊ニ使
ス、襄王雎ニ金ヲ賜ス、賈國ノ陰事ヲ告クルカト
疑ヒ、歸テ其相魏齊ニ告ク、齊怒テ雎ヲ笞夫脇ヲ
折リ齒ヲ措ク、雎伴死ス乃之ヲ箒ニ卷テ厠中ニ
置ク、雎守者ニ告テ出ルヲ得タリ、姓名ヲ張祿ト
改ム、秦ノ謁者王稽ニ從テ秦ニ入り、昭王ニ遠交
近攻ノ策ヲ説ク、王雎ヲ客卿トス、雎遂ニ相タリ、
而シテ魏知ラス、須賈ヲ秦ニ使ス、雎敝衣間歩シ
テ賈ヲ見ル、賈驚テ曰ク范叔一寒此ノ如キカト、
乃一綈袍ヲ與ス、賈相府ニ入ル、雎盛ニ帷帳ヲ陳

ネテ之ヲ見ル、賈頓首シテ謝ス、雎曰ク、汝死ナサ
ルヲ得ルハ、綈袍戀々故人ノ意アルヲ以テナリ、
我カ爲ニ魏齊カ頭ヲ斷リ來ヒ、然ラスハ我大梁
ヲ屠ラン、齊恐レテ趙ニ走ル、五十五年秦趙ヲ
伐シ、反間ヲ縱テ曰ク馬服君ノ子括ノ將タルヲ
畏ルト、趙乃趙括ヲ廉頗ニ代フ、括秦ノ將白起ニ
射殺サレ、降卒四十萬、皆長平ニ坑ニセラレ、五
十七年、秦趙ヲ伐シ、趙ノ平原君勝門下文武ノ客
二十人ト共ニ楚ニ至リ救ヲ求ム、議久ク決セス、
客毛遂劍ヲ按シ、歷階シテ上テ曰ク從ノ利害一

言ニシテ決セリ、今日中マテ決セサルハ何ソヤ、
 楚王曰ク唯々、遂銅盤ヲ奉シ、跪テ之ヲ楚王ニ進
 メテ曰ク、王血ヲ軟テ從ヲ定ムヘシ、次ハ吾君、次
 ハ遂ト、手十九人ヲ招テ與ニ堂下ニ軟ラシメテ
 曰ク、公等碌々謂ハユル人ニ因テ事ヲ成ス者ナ
 リ、楚乃趙ヲ救フ、魏ノ晋鄙師ヲ師テ趙ヲ救フ、鄴
 ニ止ル、公子無忌ノ客侯嬴力士朱亥ヲ薦テ鄴ヲ
 推殺シ、其軍ヲ奪テ以テ進ミ、大ニ秦ノ軍ヲ破ル、
 五十八年秦ノ太子ノ子異人趙ヨリ逃レ歸ル、
 異人ハ夏姫ノ子趙ニ質タリ、陽翟ノ大賈呂不韋

之ヲ見テ爲ニ秦ニ適キ、太子ノ妃華陽夫人ニ説
 テ太子ニ言ハシメ、立テ適トナス不韋傳タリ、邯
 鄲ノ姫ヲ娶テ身ムヲ知リ、之ヲ異人ニ獻ス、子政
 ヲ生ム、邯鄲圍ミ急ナリ、趙異人ヲ殺サントス、異
 人脱走シテ秦ニ歸ル、五十九年、秦周ニ入ル、王
 卒ス、翌年秦西周公ヲ單狐聚ニ遷ス、後秦遂ニ東
 周ヲ滅ス、

秦紀 姓ハ嬴氏非
後咸陽ニ都

始皇帝 諱ハ政、實ハ呂氏 九年秦ノ嫪毐亂ヲ作ス、之ヲ族

誅ス、呂不韋太后ニ通ス、事ノ覺レンコトヲ恐レ

舍人嫪毐ヲ宦者ト詐リ之ヲ進ム、事覺レ毒ヲ誅シ、太后ヲ雍ニ遷ス、齊ノ客茅焦諫ム、乃太后ヲ迎テ歸ル、楚ノ考烈王子ナシ、趙人李園其妹ヲ黄歇ニ進メテ娠ム、園妹ヲシテ歇ニ説テ己レヲ王ニ進メシム、王之ヲ幸シ男ヲ生ム、立テ太子トス、園遂ニ歇ヲ刺殺シテ口ヲ滅ス、廿年燕ノ太子丹秦ニ質タリ、其無禮ヲ怒テ亡ケ歸リ、秦ニ報イントス、荆軻ヲシテ燕ノ督亢ノ地圖ヲ挾ミ秦ニ入り、秦王ニ見エシム、軻圖ヲ奉進ス、圖窮テ匕首見ユ、秦王ノ袖ヲ把テ搥カントス、王走リ劍ヲ拔

テ軻ヲ撃ツ、軻罵テ曰ク事ノ成ラサル所以ハ生ナカラ、刎シ、必約契ヲ得テ太子ニ報セントスレハナリ、王怒テ燕ヲ攻ム、燕丹ヲ斬テ秦ニ獻ス、二十六年、秦初テ天下ヲ并ス、秦王號ヲ更テ皇帝ト曰ス、自稱シテ朕ト曰ス、制シテ曰ク、臣子ノ君父ニ謚スルハ甚、謂ハレナシ、朕ヲ始皇帝トシ、後世計ヲ以テ數ヘ、二世三世萬世ニ至リ、無窮ニ傳ヘシ、天下ヲ分チテ三十六郡トス、二十八年、帝東巡シテ鄒嶧山ニ上リ、石ヲ立テ功ヲ勤シ、泰山ニ封シ、梁父ニ禪ス、齊人徐市等ヲ遣テ海ニ入

テ、仙人ヲ求ム、二十九年、帝東巡シテ陽武ニ至ル、韓人張良カ士ヲシテ鐵椎ヲ以テ始皇ヲ博浪沙ニ狙撃ス、誤テ副車ニ中ム、始皇驚キ、大ニ求ムレトモ得ス、三十二年、帝北巡シ、蒙恬ヲ遣テ匈奴ヲ伐ツ、盧生奏スル圖書ニ秦ヲ亡スハ胡ナラント曰ノヲ以ナリ、三十四年、李斯ノ言ニ從テ、詩書百家ノ語ヲ燒ク、鑿藥ト筮種樹ノ書ノミ去テス、三十五年、朝宮ヲ營ミ、前殿阿房ヲ作ル、侯生盧生相俱ニ始皇ヲ譏議ス、始皇諸生ヲ按問シテ、四百六十餘人ヲ阬ニス、長子扶蘇諫ム、始皇怒テ蒙恬ノ軍ヲ上郡ニ監セ

レハ、三十七年、帝東巡シテ沙丘ニ崩ス、丞相李斯官者趙高遺詔ヲ矯テ、少子胡亥ヲ立テ、扶蘇蒙恬ヲ殺ス、二世皇帝諱ハ胡亥、趙高二世ニ説テ、大臣及諸公子ヲ誅ス、元年、陳勝兵廣兵ヲ起シ、鄣ヲ攻メ下ス、因テ自立シテ王トナリ、張楚ト號ス、沛人劉邦兵ヲ起ス、邦初泗水亭長タリ、縣ノ爲ニ徒ヲ驪山ニ送ル、豐西ニ到テ其徒ヲ解縱ス、夜醉テ澤中ヲ經、大蛇徑ニ當レリ、劍ヲ拔テ蛇ヲ斬ル、老嫗アリテ哭シテ曰ク、吾子ハ白帝ノ子ナリ、今赤帝ノ子ニ斬ラルト、陳勝ノ起ルヤ沛ノ令

應セント欲ス、掾主吏蕭何曹參季邦ノヲ名サシ、
 李ノ衆已ニ數十百人アリ、令悔テ城ヲ閉ツ、季
 帛書ヲ城上ニ射テ、沛ノ父老ニ諭ス、父老子弟ヲ
 率テ令ヲ殺シ、季ヲ迎テ沛公トス、楚人項梁兵
 ヲ具ニ起ス、梁ハ楚ノ將項燕ノ子ナリ、兄ノ子藉
 ヲシテ會稽ノ守通ヲ斬ラシメ、其印ヲ佩ス、兵中
 ノ兵八千人ヲ得タリ、藉字ハ羽裨將タリ、二年
 秦益兵ヲ遣シ、楚ヲ擊ツ、楚ノ莊賈其君勝ヲ弑シ
 テ秦ニ降ル、呂臣賈ヲ討テ之ヲ誅ス、居巢ノ人
 范增項梁ニ説テ楚ノ懷王ノ孫心ヲ立ツ、張良梁

ニ説テ韓ノ公子成ヲ立テ韓王トス、趙高丞相李
 斯ヲ譖ス、二世斯ヲ咸陽ノ市ニ腰斬ス、斯願テ其
 中子ニ謂テ曰久吾若ト復黃犬ヲ牽テ俱ニ上蔡
 東門ヲ出テ狡兔ヲ逐フコトヲ得ヘケンヤト父
 子相哭ス、趙高權ヲ專ニセント欲ス、群臣ノ聽
 カサランコトヲ恐ル、乃鹿ヲ二世ニ獻レテ曰ク
 馬ナリト、二世咲テ曰久丞相誤レルカ、左右ニ問
 フ或ハ黙シ、或ハ言フ高陰ニ鹿ト言フ者ニ法ヲ
 中以、群臣畏テ敢テ其過ヲ言フ者ナシ、秦ノ章
 邯定陶ヲ破リ、項梁死ス、乃趙ヲ擊ツ、趙救ヲ楚ニ

請フ楚王宋義ヲ上將軍トシ、項羽ヲ次將トシテ
 趙ヲ救フ初楚ノ懷王諸將ト先關中ヲ定ムル者
 之ニ王タルヲ約ス、時ニ秦兵強シ獨項羽秦ノ項
 梁ヲ殺セルヲ怒ミ奮テ關ニ入ラント欲ス、諸將
 曰久藉ハ慄悍猾賊ニシテ過クル所殘滅セサル
 ハナシ沛公ハ寛大ノ長者ナリ、獨遣ル可シト乃
 沛公ヲ遣ル、三年宋義趙ヲ救ヒ安陽ニ至テ進
 マス藉疾ク河ヲ渡ルヲ勸ム、義聽カス、羽帳中ニ
 就テ義ヲ斬リ、兵ヲ引テ河ヲ渡リ、舟ヲ沈メ釜ヲ
 破リ三日ノ糧ヲ持テ、大以テ必死ヲ示ス、大ニ秦兵

ヲ鉅鹿ニ破リ、王離等ヲ虜シ、章邯董翳ヲ降ス、羽
 諸侯ノ上將軍タリ、沛公武關ニ入ル、趙高二世
 ヲ望夷宮ニ弒シ、子嬰ヲ立ツ、子嬰高ヲ討殺シテ
 三族ヲ夷ス

西漢紀 姓ハ劉氏長
安ニ都ス

高祖高皇帝 諱ハ邦元年西楚沛公霸上ニ至ル秦

王子嬰降ル、沛公咸陽ニ入ル、父老ト法三章ヲ約
 ス、人ヲ殺ス者ハ死ス、人ヲ傷ケ及盗セハ罪セシ
 ト、秦ノ民大ニ喜シ、沛公兵ヲ遣リテ函谷關ヲ守
 ラシム、項羽至ル、關閉チタリ、大ニ怒テ之ヲ攻破

入范增羽ニ説テ急ニ沛公ヲ撃タレム羽ノ季父
 項伯馳テ之ヲ張良ニ告久沛公且日來テ羽ニ鴻
 門ニ見ニ罪ヲ謝ス羽留メテ飲ス增數羽ニ目示
 ス羽應ヤス乃項莊ヲシテ劍舞シテ因テ沛公ヲ
 撃タシム伯モ亦劍舞シ身ヲ以テ沛公ヲ翼蔽ス
 樊噲事ノ急ナルヲ聞テ盾ヲ持シテ直ニ入り目
 ヲ瞋シ羽ヲ視ル頭髮上リ指シ目眦盡ク裂ク藉
 曰久壯士ナリ卮酒彘肩ヲ賜ス須臾シテ沛公起
 テ廁ニ如キ間道ヨリ霸上ニ歸ル羽兵ヲ引テ西
 シ咸陽ヲ屠リ秦ノ降王子嬰ヲ殺シ宮室ヲ燒キ

始皇ノ冢ヲ掘キ寶貨婦女ヲ收テ東ス秦ノ民大
 ニ失望ス羽命ヲ懷王ニ報ス王曰久約ノ如クセ
 ン羽怒リ懷王ヲ陽尊シテ義帝トシ藉自立シテ
 西楚ノ霸王トナル沛公ヲ立テ漢王トシ巴蜀漢
 中ニ王トス韓信ハ淮陰ノ人家貧シ嘗テ城下
 ニ釣ハ漂母水ヲ以テ漂ト曰ス撃アリ其飢ヲ見テ之
 ニ飯ス淮陰ノ少年信ヲ侮テ曰久能死セハ我ヲ
 刺セ死スルコト能ハスハ我胯下ヨリ出マ信俯
 シテ胯下ヲ出ク市人皆笑ス信項羽ニ仕テ用井
 ラレス亡テ漢ニ歸ス漢王蕭何ニ聽テ信ヲ大將

二拜ス、王信カ計ヲ用井、諸將ヲ部署シ、何ヲ留メ
 テ巴蜀ノ租ヲ收メ、軍食ヲ給シ、兵ヲ舉テ陳倉ヲ
 出テ三秦ヲ定ム。二年^{西楚}、項藉義帝ヲ江中ニ
 弒ス、張耳陳餘同シク趙ニ功アリ、項羽耳ヲ常
 山ニ王トシ、獨餘ヲ三縣ニ封ス、餘怒リ、齊王田榮
 ニ説テ其兵ヲ以テ常山ヲ擊ツ、耳亡テ漢ニ走ル
 餘趙歇ヲ迎テ復趙ニ王トス、歇餘ヲ立テ代王ト
 ス、漢陳平ヲ護軍中尉トス、漢王洛陽ニ至リ、義
 帝ノ爲ニ喪ヲ發シ、諸侯ニ告テ楚ヲ伐テ彭城ニ
 入ル、項羽方ニ齊ヲ擊ツ之ヲ聞テ還テ漢ノ軍ヲ

唯水ノ上ニ擊破ス、漢ノ軍死スルモノ三十萬人
 大風晝晦キニ會テ漢王乃遁ル、コトヲ得夕リ
 審食其太公^{漢王父}呂氏^{漢王妃}ニ從テ楚ノ軍ニ獲ラ
 ル、漢王滎陽ニ至ル、諸敗軍皆會ス、蕭何亦關中ノ
 老弱ヲ發シ、悉ク詣ラシム、漢ノ軍復大ニ振ス
 三年^{西楚}、韓信張耳趙ヲ擊シ、李左車陳餘ニ説テ
 曰ク、井徑ノ道險隘ナリ、糧食必後ニ在ラン、願ク
 ハ奇兵ヲ假テ間道ヨリ其輜重ヲ絶ク、餘聽カ
 ス、信乃先萬人ヲシテ水ヲ背ニシテ陣セシム、平
 旦ニ鼓行シテ井徑口ヲ出ツ、趙壁ヲ開テ之ヲ擊

以信伴リ水上ノ軍ニ走ル、趙僻ヲ空シテ之ヲ逐
 ス、水上ノ軍殊死シテ戦ス、趙ノ軍僻ニ還ラント
 ス、僻皆漢ノ赤幟ナリ、遂ニ驚亂ス、漢ノ軍夾ミ擊
 チ大ニ之ヲ破リ、陳餘ヲ斬リ、趙歇ヲ禽ニス、隨
 何ヲシテ九江王黥布ニ説テ、楚ニ畔テ漢ニ歸セ
 シム、酈食其漢王ニ説テ六國ノ後ヲ立テシム、張
 良其不可ヲ陳シテ事罷メ、以其漢王陳平ニ聽テ
 反間ヲ楚ニ放リ、羽大ニ亞父ヲ疑フ、亞父怒テ疽
 背ニ發シテ死ス、楚漢王ヲ滎陽ニ圍ムコト急ナ
 リ、紀信詐テ自ヲ漢王ト稱シ、食盡テ降ルト曰フ

楚人皆城東ニ之ヲ觀ル、漢王乃西門ヨリ出ルコ
 トヲ得タリ、項羽紀信ヲ燒殺ス、韓信趙ノ兵ヲ
 收テ齊ヲ擊シ、酈食其漢ノ爲ニ齊王ニ説テ之ヲ
 下ス、蒯徹信ニ説テ曰ク、酈生三寸ノ舌ヲ掉ヒ七
 十餘城ヲ下ス、將軍將タルコト數歳、反テ一豎儒
 ニ如カサランヤ、四年、西楚韓信襲テ齊ヲ破ル、
 齊王酈食其ヲ烹ル、楚漢廣武ニ軍ス、項羽太公
 フ高俎ニ載セ、漢王ニ告テ曰ク、急ニ下ラスハ太
 公ヲ烹ン、王曰ク、懷王ノ時俱ニ約シテ兄弟タリ
 吾翁ハ即若カ翁ナリ、必兩カ翁ヲ烹ハ幸ニ一杯

ノ羹ヲ分テト因テ羽カ十罪ヲ數ム、羽大ニ怒テ、
 弩ヲ伏セ王ヲ射テ胸ヲ傷ム、楚龍且ヲシテ齊
 ラ救ハシム、且韓信ト濰水ヲ夾テ陣ス、信夜沙ヲ
 囊ニシテ流ヲ壅ク、且ニ渡テ且ヲ撃テ、佯テ敗走
 ス、且之ヲ追フ、信乃チ水ヲ決シ、急ニ撃テ且ヲ殺ス、
 漢韓信ヲ立テ、齊王トシ其兵ヲ徵シテ楚ヲ撃ス、
 漢英布ノ立テ淮南王トス、是時項羽助少ク、食盡
 キタリ、乃チ漢ト約シ、鴻溝已西ヲ分テ漢トシ、以東
 ヲ楚トシ、太后呂后ヲ歸シテ東歸ス、漢王モ亦西
 歸セントス、張良陳平之ヲ止ム、五年、是歲王項

羽ヲ追テ固陵ニ至ル、韓信彭越黥布皆來會ス、羽
 ヲ垓下ニ圍ム、羽夜漢ノ軍四面楚歌スルヲ聞キ、
 驚テ曰ク、漢皆已ニ楚ヲ得タリヤ、乃チ起テ帳中ニ
 飲ス、虞美人ニ舞ハシメ、悲歌慷慨シ、自詩ヲ作テ
 曰ク、力拔山兮氣蓋世、時不利兮騅不逝、騅不逝兮
 可奈何、虞兮虞兮奈若何ト、騅ハ羽カ駿馬ナリ、左
 右皆泣ク、羽圍ヲ潰シテ出ツ、漢ノ追兵及フ、羽東
 シテ烏江ヲ渡ラントス、亭長船ヲ艤シテ待ツ、羽
 咲テ曰ク、藉江東ノ子弟ト江ヲ渡テ西ス、今一人
 ノ還ルナシ、何ノ面目カ其父兄ヲ見ンヤト、乃チ自

列、楚平公、齊王韓信ヲ更メ立テ、楚王トシ、魏ノ相國彭越ヲ梁王トシ、漢王皇帝ノ位ニ即ク、初メ楚ノ將季布數帝ヲ窘ム、帝布ヲ購求ス、布魯ノ朱家ニ匿ル、朱家滕公ニ說キ、帝ニ言テ布ヲ赦ス、丁公モ亦藉カ將タリ、帝ヲ彭城ニ窘ム、帝急ナリ、顧テ曰ク、兩賢豈相厄センヤ、丁公乃還ル、是ニ至テ軍中ニ徇フルニ、丁公ノ不忠ヲ以テシテ、之ヲ斬ル、齊人婁敬帝ニ說テ、秦ニ都セシム、張良モ亦言ス、即關中ニ都ス、六年帝偽テ雲夢ニ遊ヒ、楚王韓信ヲ執ス、遂ニ赦シテ、淮陰侯トシ、符ヲ割テ功

臣宗室ヲ封ス、蕭何功盛ナルヲ以テ、酈侯トス、食邑多シ、曹參ヲ齊王肥ノ相國トシ、雍齒ヲ什方侯ニ封ス、齒ハ帝ノ平生最憎ム所ナリ、張良カ言ヲ聽テ封シテ以テ諸侯ヲ安ンス、諸將果シテ曰ク、雍齒スラ侯タリ、我屬患ナシト、群臣酒ヲ飲ミ、功ヲ争ヒ、妄呼シ、劍ヲ拔キ柱ヲ擊ツ、是ニ於テ博士叔孫通ニ朝儀ヲ起サシム、七年、長樂宮成ル、諸侯群臣皆朝賀ス、振恐肅敬セサルハナシ、帝曰ク、吾乃今日皇帝ノ貴キコトヲ知レシム、匈奴邊ニ寇ス、帝自之ヲ擊テ平城ニ至ル、冒頓單于ノ兵四十

萬騎帝ヲ白登ニ圍ムコト七日、陳平カ秘計ヲ以テ、閼氏ニ厚遺シテ乃解ク、十一年代ノ相陳豨反ス、帝自之ヲ擊ツ、淮陰侯信ノ舍人ノ弟信カ豨ト通スル狀ヲ告ク、呂后謀テ信ヲ始テ之ヲ斬ル、梁王越ヲ殺シ、陸賈ヲ南海ニ遣リ、尉佗ヲ南越王トシ、淮南王黥布帝ノ韓信ヲ殺シ、彭越ヲ醢ニスルヲ見テ、其同功一體ノ人ナルヲ以テ疑テ反ス、帝自之ヲ擊ツ、十二年布ヲ破テ還リ、沛ヲ過キ、故人父老ヲ召シテ飲シ、帝太子ヲ易ント欲ス、呂后張良ヲ要シテ畫計セシム、良太子ヲシテ辭ヲ

卑シ禮ヲ厚シ、東園公綺里奇夏黃公角里先生ヲ招致セシム、後帝置酒ス、四人太子ニ從ス、皆鬚眉皓白衣冠甚偉ナリ、帝曰ク、吾公ヲ求ムルコト數歲、今何ニ自テ吾兒ニ從テ遊フヤト、因テ戚夫人ニ指示シテ曰ク、羽翼已ニ成ル、動シ難シ、帝崩ス、
 孝惠帝諱ハ盈、高帝ノ太子、母ハ呂后元年、太后趙王如意ヲ殺ス、戚夫人ノ子、高帝光ニ太子トセシトス戚夫人ノ手足ヲ斷テ、眼ヲ去リ、耳ヲ熏ヘ、暗藥ヲ飲マシメ、廁中ニ置ク、命ケテ人彘ト曰フ、帝視テ驚キ大ニ哭ス、因テ病テ起ツコト能ハス、二年、相國蕭何卒ス、齊ノ相曹參

趣ニ装ヲ爲サシメテ曰ク吾將ニ入テ相タラシ
トス果シテ何ニ代ヲ相タリ、參一ニ何ノ約束ニ
遵ヒ、日ニ醇酒ヲ飲ムノミ、七年帝崩ス、高皇
后諱ハ雉、字ハ娥、惠帝子ナシ、後宮美人ノ子ヲ取テ太
子トス是ニ至テ即位ス、太后朝ニ臨テ制ヲ稱ス、
元年、陳平ヲ右丞相トシ、審食其ヲ左丞相トス、
太后諸呂ヲ王トセシトス、王陵高帝ノ約ヲ執テ
可カス、后陵ヲ太傅ニ遷ス、四年太后少帝ヲ廢
殺シ、恒山王義ヲ立シ、名ヲ弘ト更ム、亦他人ノ子
ナリ、八年太后呂氏崩ス、諸呂亂ヲ作サント欲

ス、時ニ呂祿北軍ニ將タリ、呂産南軍ニ將タリ、太
尉周勃陳平ト謀リ、酈竒ヲシテ祿ニ説テ兵ヲ勃
ニ授ケシム、勃軍門ニ入テ令レテ曰ク呂氏ノ爲
ニスル者ハ右祖セヨ、劉氏ノ爲ニスル者ハ左祖
セヨ、軍中皆左祖ス、勃遂ニ北軍ニ將タリ、朱虛侯
章ニ卒千人ヲ予ヘ、呂産ヲ撃ケテ之ヲ殺ス、悉諸
呂ヲ捕斬ス、諸大臣代王恒ヲ迎立ス、太宗孝文
帝諱ハ恒、高帝ノ中子、母ハ薄姫、元年、陳平ヲ左丞相トシ、周勃ヲ
右丞相トス、勃尋テ免ス、三年張釋之ヲ廷尉ト
ス、帝中渭橋ヲ行久橋下ニ走ル人アリ乘輿ノ馬

驚ク捕テ廷尉ニ屬ス、釋之奏ス、譯ヲ犯セハ法罰
 金ニ當ス帝怒ル釋之曰久法是ノ如シ更ニ重ク
 セハ法民ニ信ナラス、六年淮南王長謀反ス、蜀
 ニ廢徙セラレテ死ス、民歌テ曰久一尺布尚可縫
 一斗粟尚可舂兄弟二人不相容ト、帝聞テ病ス、後
 其四子ヲ侯トス帝賈誼ヲ公卿ニ位セントス犬
 臣多ク短ル以テ長沙王ノ太傅トス、誼上疏シテ
 方今ノ事勢ヲ論ス、因テ治安ノ策ヲ陳ス、六年
 匈奴上郡雲中ニ寇ス、將軍周亞夫細柳ニ屯シ、劉
 禮霸上ニ屯シ、徐勵棘門ニ屯シテ胡ニ備ス、帝自

軍ヲ勞ラテ、細柳ニ之キテ入ルコトヲ得ス、先驅
 曰久天子至此都尉曰々軍中將軍ノ令ヲ聞テ天
 子ノ詔ヲ聞カスト、帝節ヲ持シ、詔シテ門ヲ開カ
 シ、門士請テ曰久軍中驅馳スルコトヲ禁ス、帝
 乃書ヲ按シ徐行ス歎シテ曰久是真ノ將軍ナリ、
 七年帝崩ス、帝嘗テ露臺ヲ作ラント欲ス其直
 百金上曰久是中ノ十家ノ產ナリ、終ニ止ム、孝
 景帝諱ハ恭文帝ノ子、母ハ竇太后元年七國反ス、初吳王濞ノ
 太子帝ト博シ道ヲ争ス帝博局ヲ提テ之ヲ殺ス、
 吳王朝セス、罷錯數吳ノ削ル可キコトヲ言フ、是

二至ヲ罪フルヲ以テ楚趙膠西ヲ削ル兵ヲ削ル
 二及テ遂ニ反ス膠西膠東菑川濟南楚趙同レク
 反ス錯袁盎ト善カラス、盎言フ、錯ヲ斬ラハ諸侯
 ノ兵罷ム可シト、遂ニ錯ヲ腰斬ス周亞夫大ニ具
 楚ヲ破リ、諸反皆平ク、亞夫後相タリ、諫テ旨ニ悖
 ス上曰ク此快々タリ少主ノ臣ニ非スト卒二人
 ニ誣告セラレ、獄ニ下リ血ヲ嘔テ死ス、三年帝
 崩ス、世宗孝武帝諱ハ微、景帝ノ中建元元年董
 仲舒對策レテ王道徳化ノ歸趣ヲ言フ帝之ヲ善
 レテ江都ノ相トス、竇嬰ヲ丞相トシ、田蚡ヲ太尉

トス、二年衛青ヲ大中大夫トス、青ハ帝ノ姉平
 陽公主ノ謳者衛子夫ノ母弟ナリ、三年上林苑
 ヲ起ス、六年田蚡ヲ丞相トス、蚡稍專ナリ、帝嘗
 テ蚡ニ謂テ曰久卿吏ヲ除シ盡ルヤ、吾モ亦吏ヲ除
 セント欲ス、及黜ヲ主爵都尉トス、黜嚴ヲ以テ憚
 カラル、帝嘗テ曰ク吾云々セント欲フ、黜曰ク陛
 下内多欲ニシテ外仁義ヲ施ス、奈何ニソ、唐虞ノ
 治ニ效ハニ、帝怒テ曰ク甚ニ汲黯ノ慙ナル、元
 光二年方士ヲ遣リ神仙ヲ求ム、王恢議シテ匈奴
 ヲ誘撃セントス、單于覺テ去ル、元朔元年匈奴

入寇ス、李廣ヲ右北平太守トス、匈奴廣ヲ漢ノ飛
 將軍ト號シテ之ヲ避ク、三年、張湯ヲ廷尉トス、
 湯人ト爲リ詐多シ、智ヲ舞シ入ヲ制御ス、汲黯湯
 ト論議ス、忿罵シテ曰ク、天下謂フ刀筆ノ吏公卿
 トス可ラスト、果シテ然ル、五年、公孫弘ヲ丞相
 トス、弘東閣ヲ開テ賢人ヲ延ク、匈奴朔方ニ寇ス、
 衛青ヲ遣ハシ六將軍ヲ率テ之ヲ擊ツ、青ヲ大將
 軍トス、六年、民ニ詔シ、爵ヲ買ヒ罪ヲ贖フコト
 ヲ得セシム、武功爵ト曰ス、比歲胡ヲ擊チ經用竭
 ルヲ以テナリ、元狩元年淮南王安衡山王賜謀

反ス、事覺レテ自殺ス、博望侯張騫ヲ西域ニ使ス、
 滇國ニ通シ、又西南夷ニ事アリ、四年、皮幣白金
 三銖錢ヲ造鑄ス、桑弘羊僅利事ヲ言フ、秋、毫ヲ
 分ツ、諸賈人未作ノ繒、錢及民ノ舟車ヲ算ス、ト式
 數財ヲ輸シ邊ヲ助ク、中郎ニ拜シテ百姓ヲ風ス、
 衛青霍去病ヲ遣リテ匈奴ヲ擊ツ、前將軍李廣道ヲ
 失テ自殺ス、廣軍ニ在リ士卒ヲ撫シ、士卒爲ニ用
 ヒラル、コトヲ樂ム、死スル時一軍皆哭ス、義縱
 ノ右内史トス、王温舒ヲ中尉トス、二人皆酷吏、温
 舒河内ノ豪猾ヲ捕ス、連坐スル者二十餘家、論報

シテ血ヲ流スコト十餘里、元鼎二年、張湯罪アリ自殺ス、時ニ盜アリ、孝文ノ園ノ瘞錢ヲ發久湯其丈ヲ丞相青翟見知ストセントス丞相ノ長史朱買臣王朝邊通言ス、賈人田信湯ト賈利ヲ分ツト、帝湯ヲ切責ス、湯曰ク、臣ヲ陷ル者ハ三長史ナリ、四年倪寬ヲ左内史トス、時ニ吏皆慘刺ヲ尚フ、獨寬農桑ヲ勸メ刑法ヲ緩クス、元封元年東巡レテ神仙ヲ求ム、泰山ニ封シ肅然ニ禪ス、太初元年太初曆ヲ造ル、正月ヲ歲首トス、天漢元年中郎將蘇武ヲ匈奴ニ使人、單于武ヲ留メ北海

上ニ徙シ羝ヲ牧セシム、羝乳セハ歸サント曰フ、二年李廣利ヲ遣リテ匈奴ヲ擊シ、別將李陵敗レテ虜ニ降ル、帝酷吏ヲ專用ス、東方盜賊滋起ル、使者ヲ遣リ、繡衣ヲ衣テ斧ヲ持テ督輔ス、征和二年、巫蠱ノ事起ル、巫ハ左道ヲ執テ政ヲ亂シ人ヲ惑ス者ヲ言ス、帝甘泉宮ノ如キ、江充ヲレテ巫蠱ノ獄ヲ治メンム、太子ノ宮ヲ掘リ木人ヲ得ルコト尤多シト曰フ、太子據懼レ客ヲシテ充ヲ捕斬シ、母衛皇后ニ白シテ武庫ノ兵ヲ出シ、長樂宮ノ衛卒ヲ發ス、劉屈氂ト合戦スルコト五日太子敗レ南走ス、后自殺ス、太子

七ヶテ湖ニ至リ自經シテ死ス、後元二年、弗陵ヲ
太子トス、霍光ヲ大司馬大將軍トシ、金日磾ヲ車
騎將軍トシ、上官桀ヲ左將軍トス、皆遺詔ヲ受テ
少主ヲ輔ケシム、帝崩ス、孝昭帝ノ諱ハ弗陵、武帝
伊健始元六年、蘇武匈奴ヨリ還ル、典屬國トス、武匈
奴ニ留ルコト十九年、始強壯ニシテ出ツ、還ル時
頭髮盡ク白シ、元鳳元年、鄂邑長公主、燕王且上
官桀、安等謀反シテ皆伏誅ス、桀、安等公主ノ幸入
外丁人ノ爲ニ封侯ヲ求ム、桑弘羊子弟ノ爲ニ官
ヲ求ム、霍光皆與ヘス、且ハ帝ノ兄ニシテ立ツコ

トヲ得ス、皆怨望ス、與ニ謀テ入ヲシテ光ノ罪ヲ
上書セシム、帝時二年十四、其詔ヲ覺リ怒テ曰ク
大將軍ハ國ノ忠臣先帝朕カ身ヲ輔ケシム、敢テ
毀ル者ハ坐セシ、桀、安等謀テ長公主ヲシテ置酒
シテ光ヲ請ハシメ兵ヲ伏セテ格殺シ、帝ヲ廢シ
燕王ヲ立テントス、杜延年以聞ス、詔シテ皆之ヲ
捕誅ス、燕王長公主自殺ス、元平元年、帝崩ス、大
將軍光皇后ノ詔ヲ承テ昌邑王賀ヲ迎立ス、賀淫
戲度ナク光奏シテ之ヲ廢シ、武帝ノ曾孫病已ヲ
迎立ス、病已ハ衛太子ノ孫、巫蠱ノ時獄中ニ在リ

丙吉護シテ免ルコトヲ得クハ 中宗宣帝 初名ハ病

曰、詢ト更メ名ツク、武帝ノ曾孫、母ハ王夫人 本始三年、大將軍光ノ妻顯

皇后許氏ヲ弒ス、許后病ハ、顯鑿淳于行ヲシテ毒

弒セシメ光ニ勸メテ其女成君ヲ宮ニ入ル後立

テ、后トス、地節三年、大司馬大將軍霍光卒ハ

四年霍氏謀反シ伏誅ス、皇后霍氏廢セラレ

元康元年、京兆尹趙廣漢ヲ殺ス、廣漢京兆トナリ

政清シ、私怨ヲ以テ人ヲ殺スト言フ者アリ、廷尉

ニ下ス、吏民闕ヲ守リ號泣スル者數萬人、竟ニ要

斬セラレ 神爵元年、先零ノ羌揚王叛ス、趙充國

年七十餘將トナリ金城ニ至リ威信ヲ以テ罕開 カシ

西羌ノ種 ヲ招降シ、兵ヲ罷メ屯田ス、羌虜降ル、三年

丞相魏相卒ス、丙吉ヲ丞相トス、相吉ト同心シテ

政ヲ輔久帝皆重ニス、吉嘗テ羣鬪シテ死スル者

ニ逢テ問ハス、牛ノ喘クニ逢テ行クコト幾里ナ

ルヤト問ス、或吉ヲ譏ル、吉曰久、民鬪ハ京兆ノ禁

スヘキ所ナリ、顧フニ春時未熟セス、牛ノ喘クハ

暑ノ故ナラン、三公ハ陰陽ヲ調ス、職當ニ憂フハ

シト、人其大體ヲ知ルヲ稱ス、韓延壽ヲ左馮翊ト

ス、民昆弟相訟フル者アリ、延壽閣ヲ閉テ己カ過

ヲ思ス訟フル者各悔イテ後争ハス、五鳳三年、
 黄霸ヲ相トス、霸嘗テ潁川太守トナリ、治天下第
 一タリ、丙吉卒シ之ニ代ル、霸氏ヲ治ルニ長ス、相
 トナリテ功名郡ノ時ヨリ損ス、甘露三年、功臣
 ヲ麒麟閣ニ畫ク凡十一人唯霍光ハ名イハス、大
 司馬大將軍博陸侯姓ハ霍氏ト曰ス、黄龍元年
 帝崩ス、高宗孝元帝諱ハ爽、宣帝ノ太子、母ハ共哀許皇后、初元二
 年、蕭望之自殺ス、石顯ヲ中書令トス、弘恭石顯久
 レク樞機ヲ典ル、望之周堪劉更生ヲ目レテ朋黨
 トシ、廷尉ニ致サント請フ帝其獄ニ送ルコトタ

ルヲ知ラスシテ其奏ヲ可ス、後堪更生ヲ名ス、告
 スニ獄ニ繫クヲ以テス、帝大ニ驚テ曰ク但廷尉
 ノ問フニ非スヤ望之素ヨリ高節アリ、訕辱セズ
 帝恭顯ノ譖ニ惑ヒ之ヲ捕ス、望之自殺ス、建昭
 二年、魏郡太守京房ヲ殺ス、石顯威權日ニ盛ナリ、
 牢梁五鹿充宗等皆寵位ヲ得タリ、民歌テ曰ク牢
 邪石邪、何累々、綬若々邪、竟寧元年、匈奴呼韓
 邪單于來朝ス、漢ノ婚タランコトヲ願フ、後宮ノ
 王昭君ヲ賜フ、帝崩ス、孝成帝諱ハ嬰、元帝ノ太子、母ハ王皇后、
 建始元年、石顯罪ヲ以テ免歸ス、道ニ死ス、時ニ元

舅王鳳大司馬大將軍トナリ尚書事ヲ領ス、譚商
 立根逢時關内侯タリ、王氏ノ五侯ト稱ス、陽朔
 三年、王鳳卒ス、王音ヲ大司馬トス、永始元年、太
 后ノ弟ノ子莽ヲ新都侯ニ封ス、捷仔趙氏ヲ立テ
 皇后トス、名ハ飛燕、女弟合德ヲ捷仔トス、四年、
 王商卒ス、王根ヲ大司馬トス、時ニ吏民多ク上書
 シテ言ス、災異ハ王氏專政ノ致ス所ナリト、帝師
 傅張禹ニ示ス、禹曰、久新學、小生ノ言信用ス可カ
 ラス、故ノ槐里令朱雲上書シテ、尚方斬馬劍ヲ以
 テ佞臣一人ヲ斷ラント曰、上問フ誰ヤ、對テ曰

久、安昌侯張禹ナリ、帝大ニ怒リテ曰、久小臣敢テ
 師傅ヲ廷辱ス、罪赦サス、御史雲ヲ將テ下ル、雲殿
 檻ヲ攀シ、檻折ル、雲呼テ曰、久、臣龍逢比干ニ地下
 ニ從フコトヲ得ハ足ニ、左將軍辛慶忌之ヲ救解
 ス、檻ヲ治ムルニ及ヒテ、帝曰、久、易ルコト勿レ以
 テ直臣ヲ旌ハセ、綏和元年、王根病テ免ス、王莽
 ヲ大司馬トス、莽愈儉約ニシテ名ヲ飾ル、二年、
 帝崩ス、諱ハ欣、定陶恭王康ノ孫母ハ丁姬、建平四年、
 帝董賢ヲ嬖シ、恩寵日ニ隆ナリ、尚書僕射鄭崇帝
 ヲ諫ム、帝怒リテ獄ニ下シ之ヲ殺ス、元壽元年、

丞相王嘉ヲ獄ニ下ス、帝董賢ヲ二千石ニ益封セ
 ントス、王嘉詔書ヲ封還ス、帝怒ル、孔光等嘉ノ不
 道ヲ劾ス、嘉天コ仰テ歎シテ曰ク何武ヲ賢トシ
 テ進ムルコト能ハス、董賢父子ヲ惡トシテ退ク
 ルコト能ハス、死シテ餘罪アリト遂ニ食ハスン
 テ死ス、賢ヲ大司馬衛將軍トス、二年、帝崩ス、董
 賢罪ヲ以テ罷ラレ、即日自殺ス、太皇太后王莽ヲ
 大司馬トシ、尚書事ヲ領セシム、中山王即位ス、九年
 歲、大皇太后朝ニ臨ム、孝平帝諱ハ箕子、名ヲ衍
孫中山王元始元年、王莽ヲ安漢公トス、四年、安
 興ノ子、

漢公莽ニ宰衡ヲ加號ス、尋テ九錫ヲ加フ、五年
 莽帝ヲ弑ス、臘日椒酒ヲ上リ毒ヲ置ク、帝崩ス、太
 皇太后詔シテ宣帝ノ玄孫嬰ヲ徵ス、又安漢公莽
 ニ詔シテ攝ニ居リ祿ヲ踐マシム、孺子嬰宣帝
孫、廣戚侯歟居攝元年、安衆侯劉崇兵ヲ起シ、莽ヲ
 ノ孫、年ニ歳、討ス、克タスシテ死ス、二年、東郡太守翟義兵ヲ
 起シ、莽ヲ討ス、克タスシテ死ス、初、始元年、莽自
 新皇帝ト稱ス、新莽始建國元年、莽孺子ヲ廢シ
 テ、定安公トフ、天鳳四年、臨淮瑯琊及荊州綠林
 兵起ル、莽法令煩苛、徭役煩劇ナリ、新市ノ人王国

等兵ヲ起ス馬武王常成丹等往テ從ヒ、綠林山中
 二聚ル、五年、瑯琊ノ樊宗兵ヲ起ス、宗ノ衆皆其
 眉ヲ赤クシ、自識別ス、赤眉ト號ス、地皇三年平
 林兵起シ、漢ノ宗室劉續及弟秀兵ヲ春陵ニ起ス、
 新市平林ノ兵皆附ク、續性剛毅慷慨ニシテ大節
 アリ、秀隆準日角、性稼穡ヲ勤ム、續ノ起ルル、春陵
 ノ子弟皆懼ル、秀ノ絳衣大冠スルヲ見テ、皆曰ク
 謹厚ノ人モ亦復之ヲ爲スト、稍自安ス、淮陽王
 諱ハ玄、景帝ノ子長沙王ノ後、在位ニ年、赤眉漢帝
 二降リ、殺サル、光武即位ス、淮陽王ニ封ス、
 玄更始元年、新市平林ノ諸將共ニ劉玄ヲ立テ皇

帝トス、玄ハ春陵ノ戴侯買ノ後、平林ノ兵中ニ在
 リ、更始將軍ト號ス、性懦弱ナリ、南面シテ群臣ヲ
 朝スルニ、手席ヲ刮シ羞汗シテ言フコト能ハス
 宛ニ都シ、劉秀昆陽定陵鄧ヲ下ス、莽王邑王尋ヲ
 遣リ兵ヲ發シ、山東ヲ平定セントス、秀王鳳王常
 ニ昆陽ヲ守ラシメ、夜出テ鄧定陵諸營ノ兵ヲ發
 シテ俱ニ進ミ、尋邑ト合戦シテ之ヲ奔ラシ、遂ニ
 尋ヲ殺ス、莽ノ兵大ニ潰シ、劉續兄弟威名日ニ盛
 ナリ、玄乃續ヲ殺ス、秀喪ヲ服セシテ飲食言笑
 ス、惟枕席上涕泣ノ處アリ、更始慙シ、成紀ノ隗囂

兵ヲ起シ成都ノ公孫述兵ヲ起シ更始將ヲ遣リテ
 武關ヲ破ル折入鄧曄兵ヲ起シ迎テ長安ニ入ル
 莽曰久天德ヲ予ニ生ス漢兵其予ヲ如何セント
 漸臺ニ斬ラル軍人其身ヲ分ク節解シテ之ヲ鬻
 シ更始洛陽ニ遷都ス父老司隸校尉ノ官屬ヲ見
 テ或ハ垂泣シテ曰ク圖ヲサリキ今日復漢官ノ
 威儀ヲ見ント劉秀司隸校尉劉秀ヲ以テ大司
 馬ノ事ヲ行ハレハ遣テ河北ヲ徇テ秀過ル所莽
 ノ苛政ヲ除ク南陽ノ鄧禹秀ニ説テ曰ク今英雄
 ヲ延攬シ民心ヲ收メ萬民ノ命ヲ救ハ天下ハ

定ムルニ足ラスト秀大ニ悦ビ王郎帝ヲ邯鄲ニ
 稱ス二年玄長安ニ遷都シ上谷ノ太守耿況ノ
 子弁劉秀ニ盧奴ニ謁ス秀曰久是我北道主人ナ
 リト薊城反レテ王郎ニ應ス秀趣ニ城ヲ出テ南
 馳ス燕薊亭ニ至ル天寒シ馮異豆粥ヲ上ル滹沱
 河ヲ渡リ大風雨ニ遇フ道傍ノ空舍ニ入リテ衣
 ヲ燎ル異復麥飯ヲ進ム秀信都ニ赴キ移檄シテ
 共ニ王郎ヲ討ス郡縣響應ス遂ニ廣阿ヲ拔ク耿
 弁秀ニ會シ進テ邯鄲ヲ拔キ王郎ヲ斬ル秀吏卒
 ヲ部分ス皆言フ願クハ大樹將軍ニ屬セント馮

異人ト爲リ謙退諸將功ヲ論スル毎ニ獨樹下ニ
 屏久故ニ此號アリ、蕭王時ニ秀蕭王ニ封セラレ銅馬諳賊ヲ
 撃チ河内ヲ狗ハ鄧禹ヲシテ兵ヲ將テ關ニ入ラ
 レム、寇恂河内ヲ守リ馮異洛陽ヲ守ル王自兵ヲ
 引キテ燕趙ヲ狗ス

東漢紀姓ハ劉以洛陽ニ都ス

世祖光武帝諱ハ秀字ハ文叔高祖九世ノ孫建武元年蕭王皇帝

ノ位ニ即ム赤眉劉盆子ヲ帝トシ長安ニ入ル玄
 走ル玄ヲ封レテ淮陽王トス帝入テ洛陽ニ都ス
 隗囂天水ニ據ル 三年馮異大ニ赤眉ヲ峭底ニ

破ル是ヨリ先キ鄧禹長安ニ入リ赤眉ト戦テ利
 アラス馮異之ニ代ル禹異ヲ要シテ共ニ赤眉ヲ
 攻メ復敗ラル異散卒ヲ收テ躡テ堅ス已ニシテ
 大ニ赤眉ヲ破ル赤眉降ヲ乞フ帝軍馬ヲ陳シ劉
 盆子君臣ニ觀シテ曰ク悔ルコト無キヲ得ニヤ
 盆子、丞相徐宣叩頭シテ曰ク虎口ヲ去テ慈母
 ニ歸ス誠歡誠喜帝曰ク卿ハ謂ハユル鐵中ノ錚
 ヲ庸中ノ佼佼タル者ナリ先ニ深王永帝ヲ睢陽
 ニ稱ス帝蓋延ヲ遣テ之ヲ撃破ス永湖陵ニ走ル
 四年隗囂其將馬援ヲ公孫述ニ使ス援述ト舊

アリ謂フ相見ハ平生ノ歡ノ如シト而ルニ感ニ
 陸衛ヲ陳シテ援ヲ延久援歸テ罷ニ謂テ曰久予
 陽ハ井底ノ蛙ノミ、乃書ヲ奉シ洛陽ニ至ル歸テ
 上カ村明勇略人敵ニ非サルヲ謂ス、五年取弁
 張歩ト戰テ大ニ之ヲ破ル帝弁ヲ勞ス、步蘇茂ヲ
 斬テ降ル齊ノ地悉ク平ク處士周黨嚴光王良ヲ
 徵ス、光帝ト同シク遊學ス、徵サレテ至ル帝ト同
 シク卧シテ足ヲ帝ノ腹上ニ加ス太史奏ス、客星
 御坐ヲ犯スコト甚急ナリ、上曰久、朕故人嚴子陵
 ト共ニ卧スノミ、六年吳漢等董憲龐萌ヲ斬ル

江淮山東悉ク平ク馮異長安ヨリ入朝ス、帝珍寶
 錢帛ヲ賜テ曰、公倉卒ニシテ燕蓟亭ノ豆豉、滹沱
 河ノ麥飯厚意久シク報セス、八年帝自將トシ
 テ置ヲ征ス、涼州牧竇融等兵ヲ率テ從フ、馬援行
 在ニ詣リ米ヲ聚テ山谷トナシ、軍ノ向ヲ所ヲ開
 示ス、上曰ク虜吾目中ニ在リト、遂ニ軍ヲ進ム置
 西城ニ奔ル、潁川盜起ル帝還テ之ヲ討ス、盜悉ク
 平ク寇恂前ニ潁川太守タリ、百姓道ヲ遮テ曰ク
 願クハ寇君ヲ借ルコト一年セシ、乃恂ヲ留メテ
 鎮撫ス、九年隗囂死ス、子純立ツ、後來款破テ之

ヲ降ス、隴右平ク、十一年公孫述盜ヲシテ監護
使者來歙ヲ殺サシム、將軍馬成ニ詔シテ歙ニ代
ス、公孫述盜ヲシテ征南大將軍岑彭ヲ殺サシム、
十二年、公孫述兵ヲ引テ出テ戰ス、吳漢擊テ之
ヲ殺ス、延岑成都ヲ以テ降ル、蜀地悉ク平ク、十
三年、吳漢ノ軍還ル、功臣ノ封邑ヲ更増ス、皆列侯
ヲ以テ第ニ就ク、吏職ヲ責メス、十七年、皇后郭
氏ヲ廢シ、貴人陰氏ヲ皇后トス、帝章陵ニ幸シ宗
室ヲ會歙ス、諸母相與ニ語テ曰ク、文叔平日人ト
歎曲セス、唯直柔ナルノミ、今能此ノ如シト帝咲

テ曰ク吾、天下ヲ治ムルモ、亦柔道ヲ以テセント
欲ス、馬援ヲ伏波將軍トシ、交趾ヲ討ス、徵側徵貳
ヲ斬テ還ル、十九年、皇太子彊ヲ廢シテ東海王
トシ、東海王陽ヲ立テ皇太子トス、名ヲ莊ト改シ、
湖陽公主ノ奴人ヲ殺シテ、主ノ家ニ匿ル、洛陽令
董宣之ヲ格殺ス、主帝ニ訴フ、帝怒テ宣ヲ箠殺セ
ントス、宣叩頭シテ曰ク、聖德中興ス、奴ヲ縱テ人
ヲ殺サハ、何ヲ以テ天下ヲ治メント主ニ謝セシ
ムルトモ謝セス、帝赦ス、彊項ノ令出テヨト、錢三
十萬ヲ賜ス、二十四年、武陵蠻ヲ征ス、馬援行カ

ント請ス帝其老タルヲ愍ム、援鞞ニ據リ顧眄シ、
 用井ルヘキヲ示ス、上咲テ曰ク、嬰鑠タルカナ是
 翁ト、軍中ニ卒ス、中元二年、帝崩ス、顯宗孝明
 帝諱ハ莊、光武ノ弟永平三年、貴人馬氏ヲ立テ皇
 后トフ、援ノ女ナリ、德後宮ニ冠タリ、既ニ位ヲ正
 シテ、愈自ラ謙肅ナリ、中興ノ功臣ヲ雲臺ニ畫ク
 馬援、椒房ノ親ヲ以テ獨與カラス、十一年、東平
 王蒼來朝ス、帝問ス、家ニ處テ何等カ取樂シキヤ、
 王言ス、善ヲ爲スコト最樂シ、十六年、班超西域
 ニ使ス、鄯善王禮敬忽懈タル、超謂フ此必虜使ノ

來ルナラン、侍胡ニ問テ、匈奴ノ使來ルヲ知ルハ乃
 其吏士ヲ會シテ曰ク、虎穴ニ入ラスンハ虎子ヲ
 得スト、遂ニ夜虜營ヲ攻ム、其使及從士ヲ斬ル、鄯
 善震怖ス、十八年、帝崩ス、肅宗孝章帝諱ハ熹、
第五子母賈貴人建初元年、尚書陳寵上疏シテ曰ク、政ハ
 猶琴瑟ヲ張ルカ如シ、大絃急ナレハ小絃絶ツ、宜
 シク煩苛ヲ蕩滌シ、群生ヲ濟フヘシ、帝深ク之ヲ
 納ル、元和元年、毛義、鄭均ニ穀各千斛ヲ賜フ、張
 奉、義ノ名ヲ慕ヒ往テ候ス、府掾適至ル、義喜顔色
 ニ動ク、奉心ニ賤ンヌ、後義ノ母死ス、徵辟皆至ラ

奉歎シテ曰ク賢者固ヨリ測ル可カラス、往日
 ノ喜ハ親ノ爲ナリ、均ノ兄縣吏タリ、頗禮遺ヲ受
 ク、均諫レトモ聽カス、乃身ヲ脱シ傭トナリ、錢帛
 ヲ兄ニ與ヘテ曰ク、物盡レハ復得ヘシ、吏賊ニ坐
 スレハ終身相棄セテレント、兄感シテ遂ニ廉潔
 トナル、章和二年、帝崩ス、太子即位ス、太后朝ニ
 臨ム、竇憲外戚ヲ以テ侍中タリ、罪アリ、匈奴ヲ擊
 テ自贖ハシコトヲ求ム、后之ニ從フ、孝和帝諱
肇、肅宗ノ弟、四永元元年、竇憲北匈奴ヲ擊破シ、功
子母ハ深責ス、ヲ燕然山ニ勒シテ還ル、四年、大將軍竇憲伏誅

ス、竇氏父子兄弟朝廷ニ充滿ス、遂ニ逆ニ謀ル、帝
 中常侍鄭眾ト議シ、兵ヲ勒シテ憲ノ印綬ヲ收メ、
 迫テ自殺セシム、眾ヲ大長秋トシ、與ニ政事ヲ議
 ス、宦官權ヲ用井ル此ヨリ始ル、元興元年、帝崩
 ス、孝殤帝諱ハ隆、和帝ノ少子、延平元年、帝崩ス、
 太后鄧氏清河王ヲ迎立ス、孝安帝諱ハ祐、肅宗ノ
ハ左姫、永初四年、虞詡ヲ朝歌長トス、時ニ鄧騭大
 將軍タリ、詡邊事ヲ論シテ騭ニ忤ス、會長歌賊起
 ル、因テ詡ヲ朝歌長トス、故舊皆哭ス、詡笑テ曰ク
 盤根錯節ニ遇ハスハ利器ヲ別ソコトナント、官ニ

漢書一 卷一 聖 大 部 首

到リ、賊ヲ誘殺シ、縣境皆平ク。元初一年、虞詡ヲ武都太守トス、羌衆詡ヲ遮ル。詡計ヲ以テ之ヲ散シ、日夜兼行シ、軍士ニ各兩竈ヲ作ラセ、日ニ之ヲ増倍ス、或曰ク、昔孫臏ハ竈ヲ減シ、君ハ之ヲ増ス、兵法日ニ行クコト三十里、今日ニ行クコト二百里ナルハ何ソヤ、詡曰ク、虜ハ衆ク吾ハ少シ、徐行スレハ及ハレ易シ、速ナレハ彼測ラレス、虜吾竈ノ日ニ増スヲ見ハ郡兵來リ迎フト謂ハシ、臏ハ弱ヲ示シ、吾ハ強ヲ示ス、勢同シカラサレハナリ、大ニ虜兵ヲ擊破ス、虜皆散ス。三年、太尉楊震自

殺ス、震郡中タリ、金ヲ遺ル者アリテ曰ク、暮夜知ル者ナシ、震曰ク、天知ル、地知ル、我知ル、子知ル、何ソ知ル者ナカラシ、三公トナルニ及テ、中常侍樊豐等震ヲ譖ス、帝策シテ印綬ヲ收ム、震慷慨シテ鳩ヲ飲テ卒ス。四年、帝崩ス、太后閻氏朝ニ臨ム、北郷侯懿ヲ迎立ス、中黃門孫程等濟陰王保ヲ迎立シ、閻顯等ヲ誅シ、太后ヲ遷ス、孝順帝諱ハ保、安帝ノ子、母ハ李氏陽嘉元年、貴人梁氏ヲ立テ皇后トス、漢安元年、八使ヲ遣ハレ、州郡ヲ分行ス、張綱其車輪ヲ洛陽ノ都亭ニ理メテ曰ク、豺狼道ニ當ル安シ

ソ狐狸ヲ問ハシ、梁冀カ君ヲ無スルノ心アルヲ
 劾奏ス、時ニ張嬰楊徐ヲ寇亂ス冀綱ヲ出シテ廣
 陵太守トス、綱單車ニシテ賊壘ニ到リ、説テ之ヲ
 降ス、建康元年、帝崩ス、太子炳即位ス、太后朝ニ
 臨ム、諱ハ炳、順帝ノ子、ニ永嘉元年、帝崩
 ス、太將軍梁冀太后ニ白シ、勃海孝王ノ子續ヲ迎
 立ス、太尉李固長年有徳ノ人ヲ擇フヘシト曰ス、
 冀從ハス、諱ハ續、章帝ノ孫孝質帝
 勃海孝王ノ子 本初元年、大
 將軍梁冀毒ヲ進メテ帝ヲ弑ス、帝少クシテ聰慧
 ナリ、冀ヲ目シテ曰ク、此跋扈將軍ナリ、冀深ク惡

ム、遂ニ之ヲ毒弑ス、諱ハ志、章帝ノ曾孫吾侯志ヲ迎立ス、諱ハ志、章帝ノ曾孫孝桓帝
 建和元年、杜喬ヲ太尉トス、李固
 廢セラレ、内外氣ヲ喪フ、唯喬色ヲ正シテ撓マズ、
 朝野皆倚望ス、劉文等清河王蒜ヲ立ツルヲ謀リ、
 事覺レテ、蒜自殺ス、梁冀因テ誣テ李固杜喬ヲ獄
 ニ下シ之ヲ殺ス、延熹二年、大將軍梁冀伏誅ス、
 冀凶恣日ニ積ム、外戚ヲ以テ事ヲ用井ルコトニ
 十年、天子手ヲ拱スルノミ、帝官者單超ト謀テ兵
 ヲ勒シ、冀ノ印綬ヲ收ム、冀自殺ス、梁氏少長ト十
 ク、皆棄市セラレ、黃瓊ヲ太尉トス、汝南ノ范滂ヲ

辟ス滂少クシテ清節ヲ勵マズ嘗テ清詔使トナ
 リ冀州ヲ按察ス慨然トシテ天下ヲ澄清スルノ
 志アリ、八年李膺ヲ司隸校尉トス諸黃門皆鞠
 躬シテ氣ヲ屏ム、九年南陽太守成瑨太原太守
 劉瓚赦後ニ宦官ノ黨ヲ察殺スルヲ以テ棄市セ
 ラル、太尉陳蕃諫ムルモ納レズ李膺河内ノ張成
 カ人ヲ殺スヲ以テ之ヲ案殺ス宦官成ノ子弟ニ
 教テ膺等黨ヲ植テ朝廷ヲ誹訕スト告ケシム帝
 震怒シ郡國ニ下シテ黨人ヲ逮捕セシム蕃之ヲ
 却ク帝愈怒リ遂ニ膺ヲ北寺ノ獄ニ下ス杜密陳

寔范滂ニ連辭ス使者追捕ス蕃復極諫ス帝之ヲ
 策免ス永康元年黨人ヲ赦シ田里ニ歸シテ終
 身禁錮ス賈彪竇武ノ言ヲ用井ルナリ帝崩ス太
 后朝ニ臨ム解瀆侯宏ヲ迎立ス、孝靈帝諱ハ宏
 玄孫桓帝子ナシ建寧元年太傅陳蕃大將軍竇武
 宦者曹節等ヲ誅セント奏ス謀泄ル節等詔ヲ矯
 テ蕃武ヲ殺ス遂ニ太后ヲ遷ス、二年復鉤黨ヲ
 治ム前ノ司隸校尉李膺等百餘人ヲ殺ス范滂捕
 ニ就ク母訣シテ曰久汝今李杜李固
 杜喬ト名ヲ齊ス
 ルコトヲ得タリ死ストモ何ソ憾ミン、熹平六

年、鮮卑遼西ニ寇ス、太守趙苞ノ母ヲ劫シ、載テ郡ヲ擊ツ、苞悲號シテ母ニ謂テ曰ク、昔ハ母子タリ、今ハ王臣タリ、義私恩ヲ顧ルコトヲ得スト、進テ賊ヲ破ル、母害セラレ、中元元年、黃巾ノ賊鉅鹿ノ張角等起ル、角妖術ヲ以テ衆數十万ヲ聚ム、皆黃巾ヲ着ク、天下響應ス、皇甫嵩朱雋騎都尉曹操ト軍ヲ合セテ之ヲ破ル、操少クシテ機警權數アリ、任俠放蕩ナリ、汝南ノ許劭操ヲ論ス、子ハ治世ノ能臣、亂世ノ姦雄ナリ、皇甫嵩張角ヲ討ス、角死ス、其弟梁寶ト戰テ之ヲ斬ル、六年帝崩ス、子辨

立シ、太后何氏朝ニ臨ム、弟協ヲ陳留王トス、后ノ兄何進尚書事ヲ領ス、袁紹進ニ勸メ、宦官ヲ誅セシム、太后肯ンセス、紹等四方ノ猛將ヲ召シ、太后ヲ劫ス、遂ニ將軍董卓ヲ召ス、進ノ謀頗泄ル、宦官張讓等進ヲ殺ス、紹兵ヲ勒シ、諸宦官ヲ捕ヘテ皆之ヲ殺ス、凡一千餘人、卓至リ亂ノ由ヲ問ス、辨年十四、語了スヘカラス、陳留王答テ遺スコトナシ、卓遂ニ辨ヲ廢シ、陳留王ヲ立テ、太后何氏ヲ弒ス、孝獻帝諱ハ熹、靈、帝ノ中子初平元年、關東ノ州郡兵ヲ起シ、卓ヲ討ス、袁紹ヲ推シテ盟主トス、卓洛陽ノ宮

漢書一 卷一 第七

廟ヲ燒キ、諸帝陵ヲ發キ都ヲ長安ニ遷ス、長沙太守孫堅兵ヲ舉テ卓ヲ討ス、袁術南陽ニ據ル堅ヲ表シテ豫州刺史トス、劉表ヲ荊州刺史トス、曹操卓ノ兵ト滎陽ニ戰ス、克タス、還テ河内ニ屯ス、二年、諸將大司馬劉虞ヲ奉シ帝トセントス、虞色ヲ勵シ叱シテ曰久今天下崩亂シ、主上蒙塵ス未國取ヲ雪ク能ハス、返テ逆謀シテ相垢汙センヤ、孫堅兵ヲ進テ卓ヲ擊シ卓敗レテ西ニ走リ、長安ニ至ル袁紹冀州牧韓馥ヲ逐ヒ自州事ヲ領ス、公孫瓚袁紹ヲ攻ム、涿郡ノ劉備ヲ平原ノ相トス、備

字ハ玄徳中山靖王ノ後ナリ、大志アリ、喜怒色ニ形レス、關羽張飛ト友トシ善シ、皆備ニ從テ起ル、袁術孫堅ヲシテ劉表ヲ擊タシム、表ノ軍之ヲ射殺ス、三年、司徒王允中郎將呂布ヲシテ董卓ヲ誅セシム、布脅力人ニ過久卓之ヲ信愛ス、嘗テ小シク卓ノ意ヲ失ス、卓手戟ヲ布ニ擲ツ、允卓ヲ誅セントス、布ニ結テ内應セシム、卓入朝ス、勇士ヲ伏テ之ヲ刺ス、卓車ヨリ墜シ大ニ呂布ヲ呼ス、布曰久詔アリテ、賊臣ヲ誅スト聲ニ應シテ卓ヲ刺ス、遂ニ卓ヲ斬テ屍ヲ市ニ暴ス、卓ノ將李傕郭汜

兵ヲ舉テ闕ヲ犯シ、尤ヲ殺ス、布走、曹操兗州ニ據リ、自刺史ト稱ス、興平元年陶謙卒ス、謙徐州牧タリ、劉備ヲ表シテ豫州刺史トス、謙疾篤シ、別駕麋竺ニ謂テ曰、久劉備ニ非サレハ此州ヲ安スルコト能ハスト、備ヲ迎テ徐州ヲ兼領セシム、二年、李傕郭汜ヲ攻メ、帝ヲ劫シテ其營ニ入ル、孫堅既ニ死ス、子策先ニ富春ヨリ舒ニ徙居ス、是ニ至テ江ヲ渡テ袁術ヲ見ル、舒人周瑜策ニ從テ起ル、策轉鬪シテ向フ所皆破ル、後會稽太守タリ、建安元年、劉備袁術ト盱眙ニ戰ス、術呂布ニ書ヲ與

ヘテ下邳ヲ襲ハレム、備布ニ降ル、遂ニ與ニ術ヲ擊ツ、帝洛陽ニ還ル、曹操入朝シテ、自司隸校尉ヲ領シ、尚書事ヲ録ス、遂ニ大駕ヲ奉シ、許ニ遷ル、操郭嘉ヲ得テ喜テ曰、久孤ニ大業ヲ成サシムル者ハ必此人ナリ、呂布復劉備ヲ攻ム、備敗走シテ曹操ニ歸ス、操備ヲ豫州牧トス、備沛ニ屯シ、散兵ヲ收テ布ヲ圍ム、三年、呂布復劉備ヲ攻ム、曹操擊テ之ヲ殺ス、操下邳ヲ圍ム、布困迫シテ降ル、操之ヲ縛シテ曰、久虎ヲ縛スルハ急ニセサルコトヲ得ス、卒ニ縊殺ス、四年、袁術北走ス、劉備ニ詔シ

兵ヲ將カテ之ヲ邀ラシム術還リ走テ死ス初術
 帝ト稱シ淫侈滋甚シク資實空虚シテ自立スル
 コト能ハス袁紹ニ走ラントス備之ヲ邀ル走リ
 還リ冀牀ニ坐シテ曰ク袁術乃是ニ至ルカ劉備
 兵ヲ徐州ニ起シ曹操ヲ討ス操一日備ニ謂テ曰
 ク今天下ノ英雄唯使君ト操ノミ備方ニ食シ七
 箸ヲ失フ時正ニ雷電ス備因テ曰ク迅雷風烈必
 變ストト以アルカ大遂ニ董承等ト謀リ操ヲ誅セ
 ントス徐州刺史車胄ヲ殺シ兵ヲ起ス 五年操
 車騎將軍董承ヲ殺シ劉備ヲ擊シ備敗レテ冀州

ニ奔ル操備ノ妻子ヲ獲テ關羽ヲ擒ニス袁紹操
 ヲ擊テ白馬ヲ圍ム關羽操ノ先鋒タリ紹ノ將顏
 良ヲ萬衆中ニ刺ス羽遂ニ去テ劉備ニ紹ノ軍ニ
 走ル孫策虚ニ乘テ許ヲ襲ントス先ニ殺ス所ノ
 許貢カ奴客ニ射ラル創甚シ弟權ヲ呼テ謂テ曰
 ク機ヲ兩陣ノ間ニ決ムルハ卿我ニ如カス賢ヲ
 舉ケ能ニ任シ江東ヲ保ツハ我卿ニ如カスト遂
 ニ卒ス權代リテ其衆ヲ領ス 六年曹操復進ミテ
 汝南ニ擊シ備豫州ニ奔ル 七年曹操復進ミテ
 官渡ニ軍ス袁紹卒ス幼子尚州事ヲ襲行ス後長

子譚ト相攻ム、操攻テ之ヲ滅ス、十二年、劉備諸葛亮ヲ隆中ニ見ル、亮襄陽ノ隆中ニ寓居ス、自管仲樂毅ニ比ス、備三タヒ往テ乃見ル、因テ策ヲ問ス、亮曰ク、曹操衆ヲ擁シ天子ヲ挾テ諸侯ニ令ス、與ニ鋒ヲ争ヒ難シ、孫權江東ニ據有ス、與ニ援トスヘシ、荊州ハ武ヲ用弁ルノ國、益州ノ天府ナリ、若シ荊益ヲ跨有シ、好ヲ孫權ニ結ヒ、政ヲ脩メ時變ヲ觀ハ、霸業成ルヘク、漢室興ルヘシ、備曰ク善シ、亮ト情好日ニ密ナリ、十三年、三公ノ官ヲ罷ス、曹操自丞相トナシ、操劉表ヲ擊シ、表卒ス、子琮荆

州ヲ舉テ降ル、劉備江陵ニ奔ル、操進ニ當陽ノ長坂ニ至ル、張飛備カ後拒テ、水ニ據リ、橋ヲ斷テ、目ヲ瞋ラシ、矛ヲ横ヘテ曰ク、身ハ張翼徳ナリ、敵敢テ近カス、備夏口ニ走ル、操エ夏ヨリ江ニ順テ東下セシトス、諸葛亮救ヲ孫權ニ請ヒ、權ヲ見テ之ニ説ク、時ニ操水軍八十萬ヲ治テ、吳ニ會獵セシトス、吳人色ヲ失ス、周瑜精兵五萬ヲ得テ之ヲ破ラシト請フ、遂ニ備トカヲ并セ、操ヲ逆ヘ進ミテ赤壁ニ遇ス、東南風急ナルニ乘シ、盡ク操ノ船艦ヲ燒久人馬燒溺シテ死スル者甚衆シ、北軍大

敗ス、操兵ヲ引テ步走スノ十五年、劉備荊州ヲ孫
 權ニ求ム、周瑜曰ク、備ハ梟雄ナリ、關羽張飛熊虎
 ノ將アリ、蛟龍雲雨ヲ得ハ、終ニ池中ノ物ニ非ス
 ヲ、瑜卒ス、魯肅權ニ勸テ備ニ荊洲ヲ借ス、劉備龐統
 ヲ來陽令トス、治ラス、魯肅備ニ書ヲ遺テ曰ク、士
 元ハ百里ノ才ニ非ス、治中別駕爲ラシメ、ハ始テ
 其驥足ヲ展シ、備遂ニ用テ治中トス、十八年、曹
 操自立シテ魏公トナル、十九年、劉備張飛趙雲
 ト兵ヲ將テ流ニ沛リ、巴ヨリ蜀ニ入り、進ミテ
 成都ヲ圍ム、劉璋降ル、自益州牧ヲ領シ、諸葛亮ヲ

軍師將軍トシ、曹操皇后及皇子二人ヲ弑ス、二
 十年、劉備孫權荊州ヲ分シ、關羽江陵ヲ守リ、魯肅
 陸口ニ屯ス、備既ニ蜀ヲ定ム、權荊州ヲ求ム、備許
 サス、會、曹操關中ニ入ル、備使ヲシテ權ニ和ヲ求
 ム、荊州ヲ分テ、湘水ヲ割テ界トス、曹操關中ヲ取
 テ、張魯ヲ走ラス、二十一年、曹操自爵ヲ進メラ
 王トナル、二十四年、曹操斜谷ニ出シ、劉備ノ將
 趙雲其軍ヲ擊テ之ヲ敗ル、操引テ還ル、備終ニ漢
 中ヲ取り、自立シテ漢中王トナル、關羽江陵ヨリ
 樊城ヲ攻ム、曹操于禁ヲ遣テ曹仁ヲ助ク、七軍皆

没シテ禁降ル羽又麗徳ヲ斬ル羽ノ威華夏ニ震
 ス操許都ヲ徒シ其鋒ヲ避ントス司馬懿曰久備
 ト權ト外親ニ内疎ナリ權ニ勸テ其後ヲ躡マシ
 メヨ呂蒙モ亦權ヲ勸テ羽ヲ圖ル操ノ將徐晃樊
 ヲ救ス權ノ將陸遜又羽ノ後ヲ襲ス羽狼狽シテ
 走り還ル權ノ軍羽ヲ獲テ之ヲ斬ル遂ニ荆州ヲ
 定ム、二十五年曹操卒ス太子丕嗣テ丞相トナ
 リ遂ニ皇帝ト稱シ帝ヲ廢シテ山陽公トス黃初
 ト改元ス、

後漢紀 姓ハ劉氏景帝ノ子中山靖王ノ後蜀ニ都ス

昭烈帝 諱ハ備字ハ玄德 章武元年漢中王皇帝ノ位ニ即
 ク蜀中流言ス漢帝害セラルト王喪ヲ發シ服ヲ
 制シ謚シテ孝愍ト曰フ群下王ニ尊號ヲ稱スル
 ヲ勸ム乃帝位ニ即ク諸葛亮ヲ丞相トシ許靖ヲ
 司徒トシ帝關羽ノ没スルヲ取テ自將トシテ
 孫權ヲ伐シ權使ヲ遣テ魏ニ降ル、二年呉ヲ陸
 遜進テ猓亭ヲ攻ム諸軍敗績ス帝巫峽ヨリ夷陵
 ニ至ルマテ數十屯ヲ立テ、兵軍ト相拒久遜火
 シテ之ヲ拔ク帝夜白帝城ニ入ル呉王權改元シ
 テ魏ヲ拒ク、三年 帝禪建魏ノ師濡須ヲ攻ム別

漢史一統 卷一 三

將江陵ヲ圍ム、皆克タス引テ還ル、帝永安ニ崩ス、
 帝病篤シ、諸葛亮ニ謂テ曰久君ノ才曹丕ニ十倍
 ス、必能ク國ヲ安シ、大事ヲ定メ、嗣子輔クヘク
 ハ之ヲ輔ケヨ、如不可ナレハ君自取シ、亮涕泣シ
 テ曰ク、臣敢テ股肱ノ力ヲ竭シ、忠節ヲ効シ、繼ク
 ニ死ヲ以テセサランヤ、帝又禪ニ敕シ、亮ニ父事
 セシム、遂ニ崩ス、亮喪ヲ奉シテ成都ニ還ル、尚書
 鄧芝ヲ吳ニ使ス、吳魏ニ絶シ漢ト和ス、後帝諱
 禪字ハ公嗣、建興三年、丞相亮南征シテ孟獲ヲ生
 致ス、獲未服セス乃縱チテ更ニ戰ハシム、七夕ヒ

縱チ七夕ヒ擒ス猶縱ノ、獲止リテ去ラスシテ曰
 久、公ハ天威ナリ、南人復反セスト、魏主丕舟師ヲ
 以テ吳ヲ伐シ、丕江ニ臨シ、波濤ノ洶湧ヲ見テス
 シテ曰久、固ヨリ天ノ南北ヲ限ル所以ナリト、乃
 還ル、四年、魏主丕卒ス、子叡立シ、五年元明帝
 年、丞相亮諸軍ヲ率キ出テ、中原ヲ圖ル、發スルニ
 臨テ上表シテ曰久、先帝臣ヲ草廬ニ顧シ、臣ニ當
 世ノ事ヲ諮フ崩スルニ臨テ大事ヲ寄ス、命ヲ受
 ルヨリ夙夜憂勤ス、今南方已ニ定ル、中原ヲ定メ
 漢室ヲ興復スヘシト、遂ニ漢中ニ屯ス、六年、丞

相亮軍ヲ率テ祁山ヲ攻ム、參軍馬稷節度ニ違ヒ、
 大ニ街亭ニ敗ル、亮乃漢中ニ還ル、七年、吳黃龍元年、
 吳主權皇帝ト稱シ、建業ニ遷都ス、九年、丞相亮
 魏ノ祁山ヲ圍ム、司馬懿出テス、亮還ル、懿其後ヲ
 躡ム、又肯テ戰ハス、賈詡等曰ク、公蜀ヲ畏ル虎ノ
 如シ、天下ノ笑ヲ奈何セン、乃出テ戰ス、大ニ敗ル、
 亮糧盡テ軍ヲ退久、魏ノ將張郃之ヲ追フ、亮カ伏
 弩ニ中テ死ス、十二年、丞相亮魏ヲ伐ツ、初、亮木
 牛流馬ヲ作テ、米ヲ運シ、斜谷ニ集ム、是ニ至テ、斜
 谷ヨリ魏ヲ伐ツ、司馬懿渭ヲ渡テ之ヲ拒久、亮五

丈原ニ屯シ、兵ヲ分テ屯田ス、渭濱居民ノ間ニ雜
 リ、百姓安堵シ、軍私ナシ、丞相武侯諸葛亮軍ニ卒
 ス、長史楊儀軍ヲ整テ還ル、懿之ヲ逐フ、姜維儀ヲ
 シテ旗ヲ反シ、鼓ヲ鳴シ、懿ニ向ハントスルカ如
 クセンム、懿敢テ逼ヲス、百姓諺シテ曰ク、死諸葛
 走生仲達、亮政ヲ爲スニ私ナシ、馬稷ノ敗ル、流
 涕レテ之ヲ斬リ、其後ヲ卹ム、李平廖立皆亮ニ廢
 セラレ、亮ノ喪ヲ聞テ、皆歎息流涕シ、病ヲ發シテ
 死スルニ至ル、蔣琬ヲ尚書令トシ、國事ヲ總統セ
 シム、
 延熙二年、魏主叡卒ス、太子芳立ツ、年八歳

八年尚書董允卒、官者黃皓ヲ中常侍トス、十二年、魏主芳高平陵ニ謁ス、曹爽等皆從ス、司馬懿太后ノ令ヲ以テ諸城門ヲ閉テ爽カ僭擬專權ノ罪ヲ奏ス、爽駕ヲ奉シテ宮ニ還ル、懿遂ニ爽及何晏等ヲ殺シテ、其族ヲ夷ク、十四年、魏ノ太傅司馬懿卒ス、其子師自撫軍大將軍トナリ尚書事ヲ録ス、十五年吳主亮建昌元年、吳主權卒ス、太子亮立シ、十六年、盜大將軍費禕ヲ殺ス、姜維事ノ用米數兵ヲ出シテ魏ヲ攻ム、十七年魏主髦正元元年、魏ノ司馬師其主芳ヲ廢シ、高貴郷公髦ヲ迎立ス、十

八年、魏ノ司馬師卒ス、師カ弟昭自大將軍トナリ尚書事ヲ録ス、景耀元年吳主休永安元年、吳ノ孫綝其主亮ヲ廢シ、瑯琊王休ヲ迎立ス、綝尋テ伏誅ス、三年魏主煥景元元年、魏ノ司馬昭其主髦ヲ南門下ニ弒ス、魏主威權ノ日ニ去ルヲ見テ、忿ニ勝ヘス、殿中ノ宿衛蒼頭ヲ率テ、鼓譟シテ出シ、昭ノ黨賈充入テ髦ト戰ス、成濟戈ヲ抽テ髦ヲ刺ス、車下ニ殞シ、司馬昭常道郷公璜ヲ迎立ス、名ヲ煥ト更ム、炎興元年、魏鄧艾鍾會ヲ遣テ兵ヲ將テ、入テ關口ニ寇ス、守將傅僉之ニ死ス、姜維戰敗シ、還テ劍閣ヲ

守此魏ノ司馬昭始テ相國晋公ト稱ス、鍾會劍閣ヲ攻メ克タス、鄧艾進ミテ陰平ニ至ル山谷高深ナリ艾糧ヲ以テ自裹ミ推轉シテ下ル將士皆木ヲ攀チ崖ニ緣リ魚貫シテ進ム、諸葛瞻艾ト綿竹ニ拒戦シ敗績ス其子尚ト之ニ死ス、鄧艾成都ニ至ル、譙周降ラント請ス、此地王譙怒テ曰ク若理窮リカ屈セハ父子君臣同シク社稷ニ死セシ奈何ソ降ラレヤト、昭烈ノ廟ニ哭シ妻子ヲ殺レテ自殺ス、帝降ル、姜維等帝ノ命ヲ得テ亦降ル

魏
咸

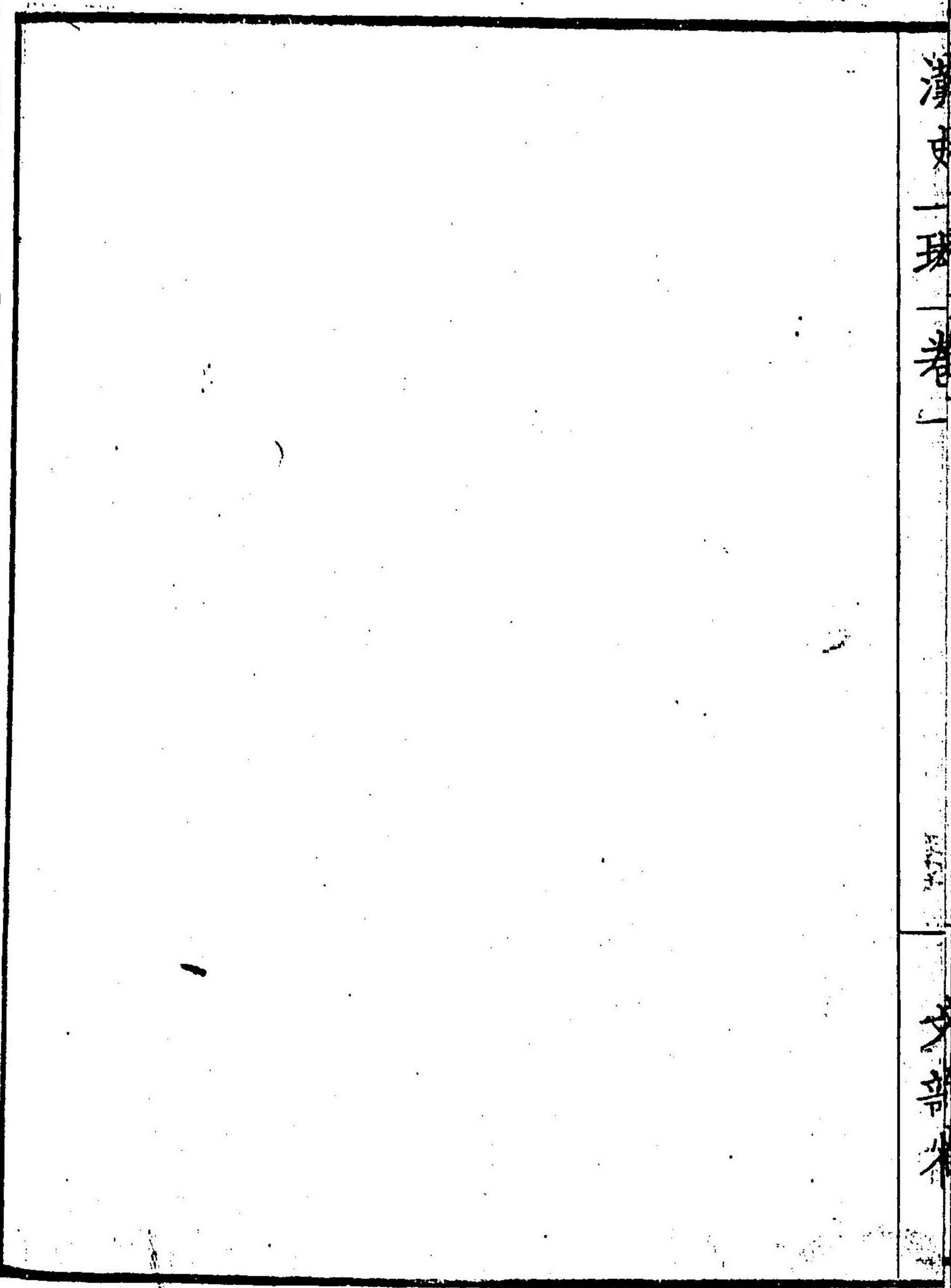
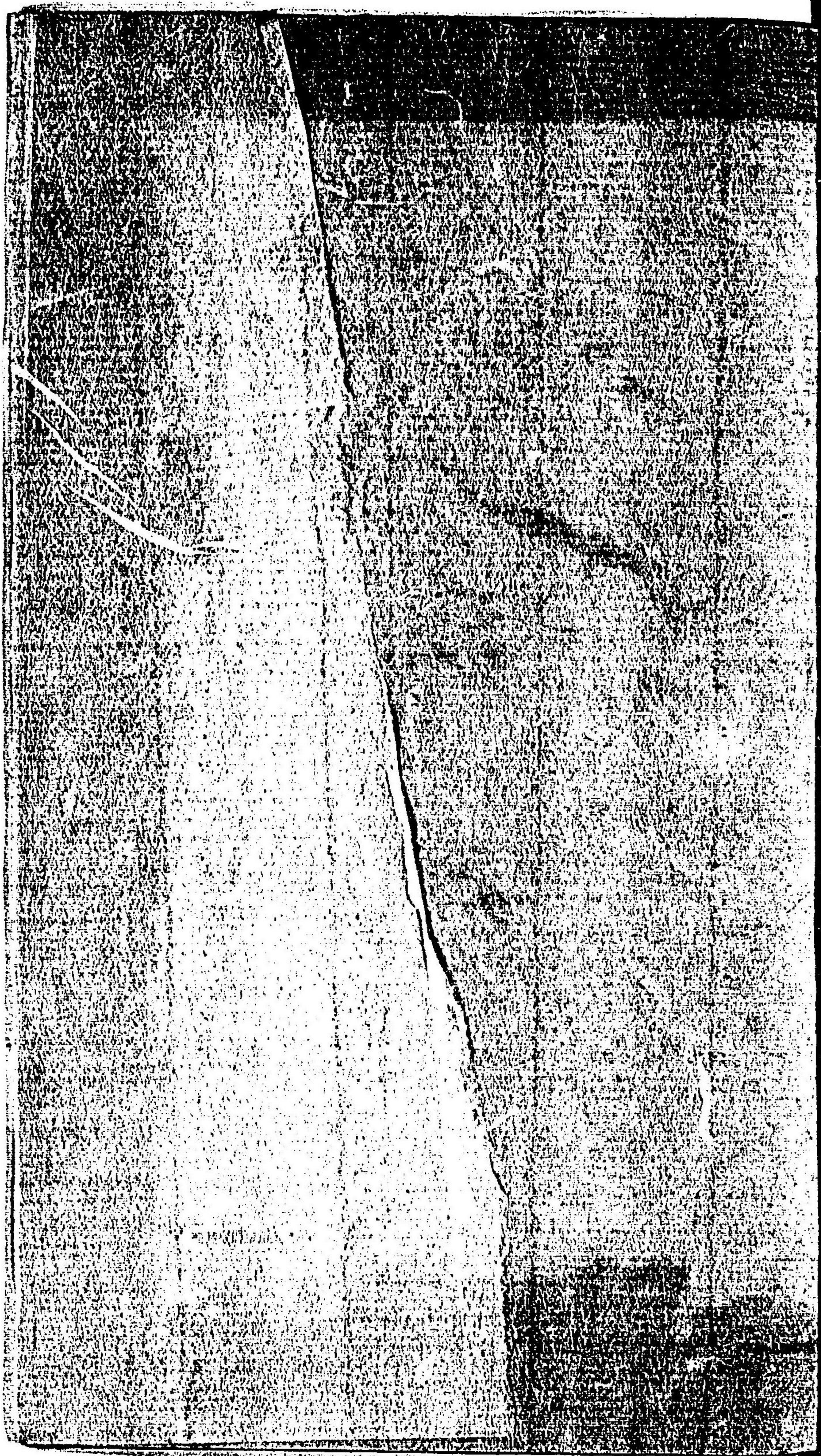
熙元
時元

吳主
興元

魏檻車ヲ以テ鄧艾ヲ徵ス、鍾會謀反

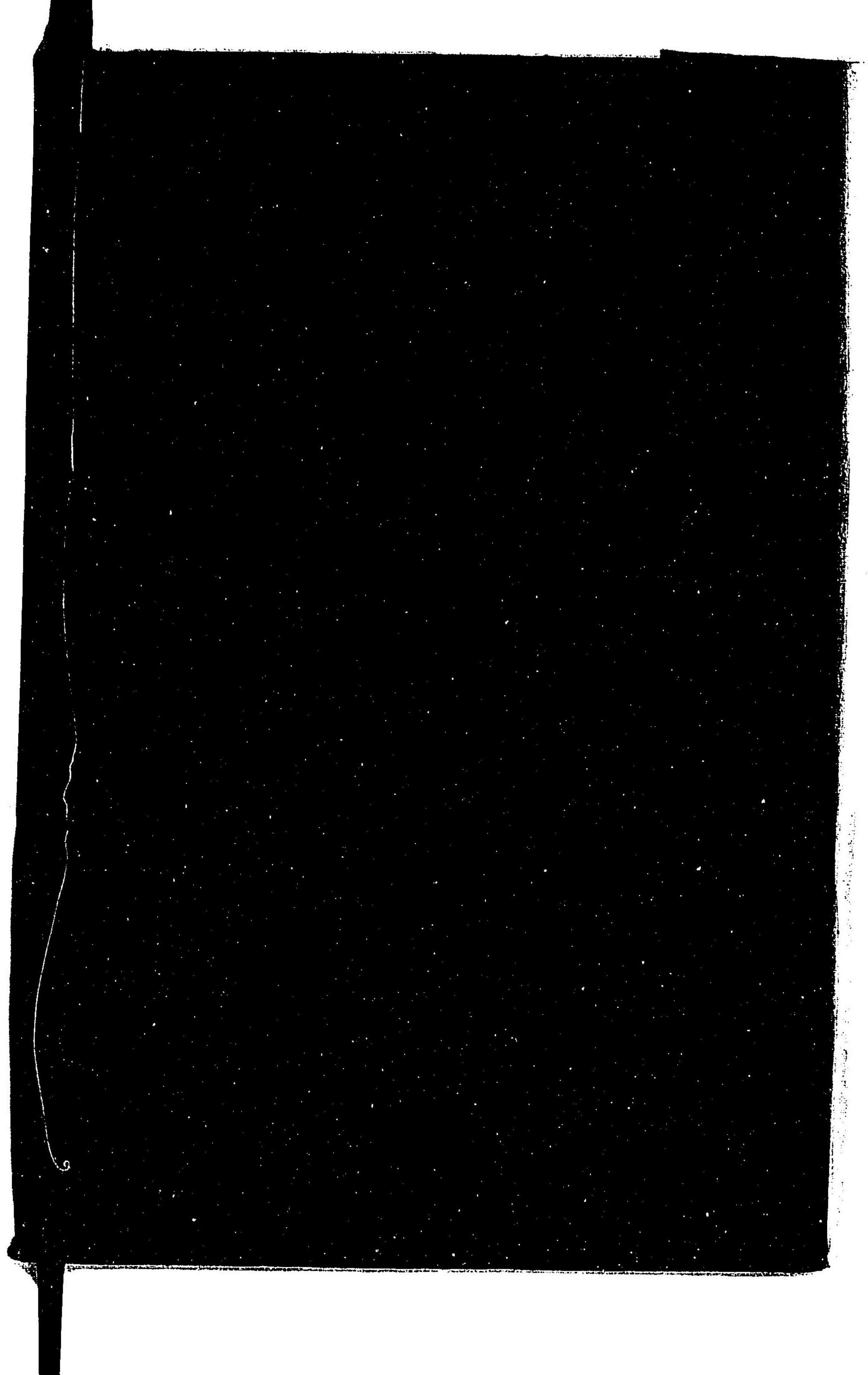
シテ伏誅ス、吳主休歿ス、烏程侯皓立ッ、

漢史一斑卷一畢



漢書
一
班固
卷一

文
書



特 31

691

002990-001-6

特 31-691

漢史一斑

小永井 八郎 / 編

M15

ACC-0020

